
前世の記憶

京本 2 0

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

前世の記憶

【コード】

N9550J

【作者名】

京本20

【あらすじ】

私の前世の記憶を書いてみた駄文・・・+未来予知付き

1 前世から現在まで 「蒔いた種を刈り取る」

あれは確かに未知との遭遇でした・・・子供の頃の身も凍るような体験。

音もなくそれは近づいて来たのです。 私の頭上近くまで・・・

「見つかった！」と瞬間そう思いました。

見えない物体が 私の頭上で 「グオ〜ングオ〜ン・・・」とゆっくり回転しています！

その音は お寺の鐘よりも低く長い音でした。

あまりの怖さに 私はとっさに隠れたのですが 不気味な音から察すると

大きな山2つ分はある物体へ母船だ！

・・・・・・それからです。

私が 遙か遠い未来を見たり・悲しい想い出を垣間見たのは。

話は多少前後しますが

私の記憶にある名前・・・エジプト時代では

シーザー、シ・ザリオン、アントニー、クレオパトラ、ネフェルティ
イー、ネフェルティア

ネフェルティティ、……リオン、ユリ叔父ちゃんです。

歴史上で はっきりその人だと思います。

大切な事は 「全ては最初が肝心」 だと言う事です。 へたをす
ると・・

蒔いた種を刈り取らないといけない苦勞をする。 そんな気
がします。

私は今 心穏やかに幸せに暮らしています。

まるで 背中に羽根が生えてきたみたいに 身も心も軽い。

では 私の前世からの 記憶と 蒔いた種を刈り取るまでの苦勞
を お話します……

それを決定ずけた「キーワード」や 「失敗した事」なども……。

私は 赤ちゃんの頃の記憶もすっかりあり 中学で世界史を学ぶ
頃から あれ？これ知ってる？

どうして？ と言う感じで 今日まで続けていました。

直接 母に 私の赤ちゃんの頃の出来事をとか 確認をしてみま
したら 事実で

母も驚いていました。

2 前世の記憶と輪廻転生

私の輪廻転生は

「聖母マリア」「クレオパトラ7世」「楊貴妃」「小野小町」
「一休の母」「油問屋の娘」

現在の子供も「イエス」「クレオパトラの一人息子」「ツタンカーメン」
「一休」「油問屋の娘の子供」

として輪廻転生し 現在 やっと平凡ですが 親の愛・家庭
の温もりで

子供を包んでやれるまでになりました。

5

楊貴妃の時代では ム皇帝の息子ムはアントニウスの生まれ変わ
りです。

ム私と出逢う為だと・・・ ム この時 次々と妃候補を連れてくる
ので

私は何故か 特別な感情ム嫉妬に似たムで邪魔をしてしまいました。

息子ツタンカーメンは ムエジプト時代から長期の埋葬の為ム
一休として生まれるまでが遅かった。

特に「一休の時代」は・・・幼少より 余りにも辛く苛酷な思いをさせてしまい・・・

今でも心が痛みます・・・

長い間 子供には 本当に寂しい思いをさせてしまいました・・・
・ 本当にご免なさいね・・・

魂の修行は 蒔いた種を刈り取るまで続きます。

普通の方の 輪廻転生は 何十回と 数多いのでしようが・・・

私達の 輪廻転生は 数少ないので 知り合う人の数・喜び・
楽しみ方・遊び方なども

知らないし少ないと思います。 仕事ばかりで・・・これから
ゆっくり人生を楽しみます。

3 前世の記憶

<イエス・聖母マリア> については省略。

<クレオパトラ7世>

プトレマイオス王朝・ 両親はとても心の優しい人で・母の名は ネフェルティア？

か・ネフェルティー 祖母 姉が一人おりました。

私は母の名を貰い ネフェルティティ と呼ばれていました。

私は幼少より 色んな事を学べる環境で育ちました。

語学は6ヶ国 歴史にも詳しく 唄・踊りが好きでした。

今も ベリーダンス・エジプト音楽が好きです。

声は 低い声 かわいらしく高い声まで出せます。 今も ^^

アザも 輪廻転生しても 同じ所にあります。

4 結婚 子供 父の死

私は とても真面目で 純真な女性です。

<初めての結婚>アクエンアテンとの結婚

子供「男子」の名は・・・リオン「 語尾がリオン」

当時 姑が とても厳しく 辛い思いをしていました。

「 現在とメンバーは殆んど同じです。 両親も。 蒔いた種を刈り取る為です」

「つまり・・・ 子供が 親の愛を求めて 生まれてきたからには それを必ずクリアするまで

続くという事です。 メンバーが揃った時点で 人生の流れが 決定する。」

<両親の死>

父が亡くなり 急遽、後継者がいなくてはならなくなり

「直系の血族はもう私だけなので」

嫁いだ家を 出ることになりました。

私は 内心 ほっとしました。 姑が かなりきつかったので。

子供は長男「後継ぎ」なので連れて出ることにはできませんでした。

いつの時代も「現代も」 代々 女系家族の存続で

婿養子を貰い 直系の血族を維持してきましたので

女一人では 無理です。 婿がいませんし。

成人男性がいなければ この国は守る事ができない・・・

でも 名案が浮びました。 何も婿を取らなくても 国を守る方法がある

強力な後ろ盾があれば大丈夫。 「カエサルしかいない」と思いま
した。

5 カエサルと私の関係

私は まず ユリウス・カエサルのもとに急ぎました。

彼は 父方の 親戚の人です。 叔父です。

私は幼少の頃から 「ユリオちゃん」と呼び よく遊んでもらっていました。

「思い出」 子供の頃 初めて 肩車 して貰い 怖くて大泣きました。

後 上腕筋にぶら下げてもらい 振り回して貰ったら それが面白くて ゲラゲラ大笑いしてた。 ^^

ユリオちゃんが来るたび 何度も腕にぶら下がり 遊んでもらいました。

<カエサルに会いに行く>

私は 茶目っ気たつぷりで 「よし びっくりさせてやるぞ」と思い 籠に入り

上から ハジュータンより柔らかで薄い 綺麗な布々 を被させて

ビックリ箱みたいに中から 両手を万歳した格好で 「ジャッ

ジャ・ジャーン」

と言って 飛び出し 叔父を驚かせたのを覚えている。

^^

私は無邪気で純真無垢な子供のようでしたから

人をびっくりさせたり 冗談を言って楽しむのが大好きでした。

この籠を 運ばせる際 男性2人に

「貢物だと言って 呼んでちょうだい」 とふざけて確かに言いました。 が

こんなに 未来まで悪く噂されるとは 思ってもいませんでした。

^^； 冗談が通じない相手でした・・・

私はカエサルハユリ叔父ちゃんに 「びっくりした〜？」と訊いてみた。

叔父はいつものようにニコニコ笑顔でした。

「楽しかったあー また驚かせてあげるね〜」 と話した後で

自分が 王位継承者として頑張るから 何かあったら助けてね
とお願いしたら

「それなら任せておけ」 といい返事を頂いた。

カエサルと私は 噂されているような 「男女の仲」ではないので
す。

私は 男に言い寄ったり 騙したりするような 「淫乱」な性格
ではなく

凄く真面目で 誠実 純真な女性です。 政治しか興味のない

6 クレオパトラの誕生

力強い ユリウス・カエサルへの言葉は 百人力です。

私は 幼馴染への絶対的に信頼のおける人々に協力してもらい
ピラミッド建築を開始した。

王位継承者〃 「クレオパトラ」の称号を 幼馴染と2人で
考えました。

「クレオ」は 彼が先に考え

「パトラ」は 発音が大好きで 私が 考えました。

どちらも意味のある大好きな言葉です。

「クレオパトラ」と決めました。

「女王クレオパトラ」の誕生です。 7世は後世、考古学者が勝手に
付けただけです。

クレオパトラは私だけです。

これは 政治上の称号ですので 普段の名前は 「ネフェルティテ
イ」です。

7 共同統治ではない

幼馴染の男性は とても誠実 実直 頭脳明晰 絶対に裏切らない
いい人なので

彼に エジプト建築の協力をして頂きました。

実際は 共同統治ではありませんが 周囲の目には そう見え
てたかも知れません。

協力する代わりに 彼のピラミッドも造る事になりました。

<ピラミッドの建設>

ギザの3大ピラミッド

ここに 2つ建設する事に決めました。 〓ギザの3大ピラミッド

当時 大きいピラミッドが一つ 〓クフ王

近くに ライオンに似た像が 既に存在しておりましたので
これを真似て

中位の大きさ 〓彼のピラミッド 〓 小さい 〓私のピラミッド 〓

ライオン似の像の 頭部のみを 私に似せて彫らせた 〓スフィン

クスを 建造する事になりました。

彼は 建築の専門家と 従事する 労働者達を 広く募集しました。

私、幼馴染、後の侍女2人はギリシヤ人ですが

労働者・その家族等と全く 人種が違うので「色黒」

言葉を交わすなどと言う事はありませんでした。

ピラミッド建築後も そのまま農耕を続けて頂きました。

労働者とその家族達には 全てが保障され 何不自由のない生活でした。

8 ピラミッド

この2つのピラミッドは クフ王のピラミッドと見た目は同じですが 内部の構造が違う。

当時のピラミッドの目的ー

魂が真つ直ぐ天に向かい 神の許に そして再びその肉体に戻り 甦らせる為。

肉体の保存・再生の為にー 血液・内臓等は取り除き、
心臓は残す＝甦る為 ー

皮膚を布でしっかり巻き 溶液に浸す

処置がされた。

そして 魂が肉体から離脱する 特定の期日までに ピラミッドに収める必要がある

その作業は ピラミッド内の 棺を収める場所 または 近くで行われたと思います。

幼馴染が亡くなった時も ……ピラミッドまで出向き 少し長い下り坂を進んだ先に

棺の上に置かれた彼の遺体＝ミイラにする前～があり 最後の
お別れをして

ピラミッドを出た記憶がありますので。

彼とよく このピラミッドの中に入れる物を 楽しく話して合
っていました。

彼は チキン <空を飛ぶ白い鳥で ニワトリではない> が大
好物で

やや細長い 白っぽい甕に似た入れ物に 山のように詰めさせ

ピラミッドの中央より 左側の位置に 多量収めさせた。

私も 好きな食物・化粧道具へ 鏡は丸い形の銅板みたいなを
入れました。

9 ピラミッド建築と労働者

ピラミッド建築に従事する労働者達を 広く募集して 大勢集めた。

そして 充分過ぎる 「衣・食・住」 を提供する代わりに 建築に協力して貰う事になりました。

勿論 <家族で住める・休日もきちんとある・病気等・色々待遇もあり>

労働時間も決められ 休憩時間も多く 今の世の中より ずっとゆったり楽しく

仕事に従事していました。

毎日のように夕方からは 宴会があり 酔っ払いも少しいたり 皆楽しんでおりました。

決して労働者を 奴隷のように こき使っていたのではありません。

10 政治

周囲の目には 共同統治に見えていたと思いますが 決してそうではありません。

彼は エジプト建築の協力者で 幼馴染 それだけです。

何度も言いますが 男女の関係などは 一切ございません。 カ
エサルとも。

<政治の内容>

私は貿易として 度々 諸国の要人を招待し 今後の取引を含め

良い関係を保つようにしてました。 7人位の方々がずら
くつと並び

一人一人順番に 美しい声で 丁寧に挨拶をしてゆき 冗談も
言いながら

和やかに話を進めました。 7カ国語位は 話せたと思います。

また私は 歴史にも詳しく 全て一人で 石板の厚さ20cm・
幅86cm×長さ138cm位

にその土地で起きた 歴史・水害などを象形文字などで記し 彫ら
せていました。

記憶にある文字は 真横から見た <鷺に似た鳥の姿>

現在の <ロゼッタ・ストーン?>だと思えます。

この頃 幼馴染が 度々会いに来てくれて

「そんなの 誰かにやらせておいて どこか遊びに行こうよ・・・」と誘ってくれましたが

政治の事しか興味がない私は 彼の気持ちには気付きもせず

「でも・・・やっぱり・・・私がないと・・・もう少しやってみるね」

と断わってしまいました・・・ 今になって 彼に申し訳ないなあ・・・と思います。

この作業中

「未来の人々は このピラミッドなどを見て さぞかしびっくりするでしょうねえ」

と笑いながら話していました。

当時 未来の人間の能力は 今よりも遥かに衰えている と考え

らねていましたから。

11 父について

父は 政治上の付き合いで 大変忙しく 男同士の集会で
は 酒・女が付き物で

毎日のように 皆に酒を注ぎ まあ一つ今後とも宜しく・・・と
一人一人 持て成していたと思います。 是が非でも 仲良
くしておかなければいけないのです。

どんなに 酔っ払っても 女性が近ずいて来ても 上手く交わ
して

ふらふらになりながらも 母・私達「家族」のもとへ帰ってき
ました。

「放蕩」と噂されていますが 誤解です。 父は母だけをとて
も愛しており

家族を守る為に 必死で政治上の 努力をしておりました。

敵をつくる!! 家族の命が危ない

「また呑んで帰ってきた」

と祖母が騒いでは 「将来 子供がこうなっては大変」と

私は子供の頃から 色々な勉強をさせてもらいました。

父は 「戦う事」よりも 来る人来る人全員を 「持て成す事」
に全力を注いでいたのです。

酔っ払わない日は 長くて4日まででした。

ハ呑み続け 身体の具合が悪くしたのだと思います。

でも家族には そんな素振りは一切見
せませんでした・・・

どんなに酔っていても 帰ると真っ先に 母・私達を抱きしめ
てくれました。

周りの 「お酒臭い」の声を いつも聞いていたので 私
も子供ながらに

「おちゃけくさい おちゃけくさい・・・」と言っていま
したが

父は喜んで 何度も何度も 抱きしめてくれました。

今も変わらず　父は家族をとて愛し　身体の不自由になった母
を

甲斐甲斐しく一人で見ております。

人の悪口や　泣き言は一切言わない　女を泣かさない　家族の為
に必死で働いてきた父を

私はとても誇りに思います。

この世で一番　尊敬できる人は「父」です。

12 クレオパトラの容姿

<私の容姿> ネフェルティティ 〓 クレオパトラ

私の小彫像<上半身>が そのまま残されていると思います。

38歳の頃の姿で 正装・帽子を着用 顔もそっくりそのままです。

正装〓 「王位継承」者のみが身に付ける服

この像を 態々彫らせた訳は 何か「女王」としての証を 残さなければと思ったからです。

「変身」

要人を招待する時は 美しく化粧し 素敵な姿で出迎えました。

アイシャドーは 白地に黒・ブルーのラインを入れ パツチリと美しく

髪型で 記憶にあるのは……

目の前にある黒髪カツラは長めのおかつぱのサイドにウエーブを付けている自分。

要人を招待する時は 必ずこの髪型にしました。

私には 2人、14、15歳の侍女がおり この髪型の時はいつも

「本当に似合っているのかしら？」 と不安で 毎回訊いていました。

「よくお似合いですよ」 ^^ といつも答えてくれました。

自分の髪を 巻いたような記憶はないです。

< 私の部屋 >

長い廊下を進み 突き当りの右が 私の部屋で ここは寝るためだけに帰る。

侍女に 廊下の右端にある長棚は 幅21cm・高さ116cm位
に

「ここに いつでも食べられるように 間隔あけてブドウを置いてて」

は小粒でマスカットに似てる」と頼みました。

4ヶ月に一度くらい 一粒か二粒 摘まみましたが

いつも新鮮で 埃とかも一切付いてませんでした。

13 クレオパトラの日常について

公務―政治・貿易への要人の招待の為― 必要最小限の物が用意された。

私の椅子への王座―・アクセサリ―等用意させましたが

私が一言「椅子を用意しておいて あとアクセサリ―もお願いな」と言えば

ささーっと 金椅子・金のアクセサリ―・・・が準備され
それも素晴らしく早い。

金の玉座は 4日も掛かりませんでした

公務で金が使用されていただけで 日常は普通の物でした。

今世では 価値のある金も 私には 特別何も・・・

「用意されただけの物」 でしかなく 遊び・贅沢もせず 政
治のみ行っていました。

人は誰でも 「輪廻転生」し 皆 平等に富・権力等与えられ
修行する。

でもそれは 「楽しみながら」 少しずつすればいい事です。

・ ・ 私 は ・ ・

< 姉 >

「姉が 処刑された」 と連絡が入りました。

姉は 一人の男性を愛し 後を追って国を出ました ・ ・ 妻のいる方で

命懸けの恋だったのでしょ う。 他国で処刑されました ・ ・

< 星の観測所 >

5ヶ月に一度位 夕方から何もする事がない時は 星の観測所に行き

静かに 専門の方のお話を聞いて ^ ^ ; 暇つぶしをしました。

< アブシンベル神殿? >

幼馴染と 観光に出かけました。 腰掛けた 四体のファラ

才に 息を呑みました。

「壮大で 堂々とした 品格ある姿」に 私達は敵わな
いなあ・・・と思いました。

14 幼馴染の死

<乳形ワインの杯>

普段から 茶目っ気のある私は いい事を思いついた。

「そっだ おっぱいの形した ワインの杯を作って 誰かをび
つくりさせよっ」と

2つの杯へ 銅 ♪ を作りました。 幼馴染とアントニウスに

「これ 私の胸の型を取り 作らせたワインの器なの よかつ
たら使つてね」

と手渡しました。 ただの子供じみたイタズラなのです。

型は勿論 取っていません。

独身の若者は 幼馴染、アントニウスしかいませんでしたから

2人に差し上げました。

男性として差し上げたのではないのです。

私は無邪気で 子供みたいな性格でしたから・・・

2回、挨拶でチラッとしか見ていない相手、性格も何も分からない
アントニウスに差し上げてしまった・・・

嫉妬深い彼に近ずかなければ・・・こんな事には・・・

< 幼馴染の死 >

普段から元気な彼が 亡くなりました・・・ 原因は不明です。

犯人はアントニウスです。

彼は「異常」に嫉妬深く 人の弱みに付け入り 「手下」にし
平気で暗殺をする・・・

当時 一番怖い人でした・・・今だから解るのですが・・・

幼馴染は ギザのピラミッドの2番目に大きい に入室され
深い眠りにつきました・・・

私は 民に 「カフラー」の神聖な意味を持つ 東より出ずる人 神と呼び

尊崇するよう言い渡しました・・・

カフラーは王の名ではないのです。 カフラー王でもありません。

15 シーザリオン

<シーザリオン>

父・祖母も皆亡くなり 一人息子の「・・・リオン」は
母のいるアレクサンドリアへ来る事になりました。

向こうで事件があったそうで 遠縁の男性が 水商売の女を
困らせていて

その性悪女が 次々と親戚中の者を 惨殺して廻っていたらしく
残された5、6人の男性により なぶり殺しにされた との事でした。

<ユリウス・カエサルⅡジュリアス・シーザーの暗殺>

幼馴染の死で 「右腕」を失った私は カエサルの武力に頼る事
で「援護」

子供を >次期ファラオくに迎え 権力を固持し

エジプトⅡ私を守ろうと考えました。

ユリウス・カエサルの敬称Ⅱ「ジュリアス・シーザー」

敬称は 最愛妻の名「ジュリア」をとり カエサルが一人で考えました。

カエサルは私に

「ジュリアのシーザーか シーザーのジュリアか 最愛のジュリアにしようと思う」

と言い 散々考えていました。^^

私の記憶では 「ジュリアのシーザー」 です。

私の息子はシーザーの名の一部を貰い「シーザリオン」〔敬称〕とし

「今後カエサルには 全面的援助する」と公表しました。

私と息子の守備の為に 提携を取極めました。

実際には 守備・援護は全く行なわれていなかったのですが。

それほどエジプトは 平和な国で 攻め入る者など誰もいなかったのです。

エジプトの莫大な援助により カエサル「シーザー」は

ローマの公共事業へ道路・入浴施設・競技場など〴〵行い

ローマの民の食事も豊かになり 民からは大変喜ばれ、慕われていました。

アントニウスは これに嫉妬し カエサル暗殺を企てました・・・

抵抗できない弱い立場の者達へ捕虜〴〵を利用し

叔父のカエサルを惨殺しました・・・

最後の言葉「ブルータス お前もか」

カエサルは義理人情に厚く 捕虜にも優しく普通に接してきましたので・・・

裏切られた悲しみの方が強かったと思います・・・

「ローマは一日にして成らず」ではない。

エジプトの莫大な援助あつてこそです・・・

ローマは戦いにより 土地も荒れ果て 民達は皆 満足な食事をしていなかった。

エジプトの援助と カエサルの努力で ローマ全体の生活は豊かになり 不自由ではなくなつた・・・

しかしエジプトやクレオパトラの 誹謗・中傷は とても酷く ローマ全体に広がりました・・・

感謝されるどころか・・・

そして 何も知らない私は 後にアントニウスと結婚しました・・・
アントニウスは 幼馴染、カエサル、私の息子ハツタンカーメンを暗殺したのです・・・

息子・リオン、シーザリオン、ツタンカーメンは
前夫との子供ハ長男で 向こうの後継ぎなのです。

つまり 息子を知っている者は ごく一握りなので 黙っていれば

誰にも命を狙われなかった・・・

<私の家系>は

代々「婿養子」を迎え 国を守ってきましたから

「右腕」となる男性がいなくては 「国が守れない」と思い込んでいたのです。

私が息子を 次期ファラオにしようと公表さえしなければ こんな・・・

誰にも頼らず 私一人で政治を行なっていれば・

実際「か弱い女性一人」を攻めて来るような 卑怯な男はいない
のでした……

誰にも頼れないし…… 父がいてくれたらなあ……

この取極めを 周囲の人達は <結婚> と誤解し中傷したの
です。

厭くまでも 政治上の取極めですので。

大切な人達は……嫉妬深い アントニウスの指がねにより 暗
殺されました……

乳形ワインの杯を アントニウスに差し上げた たった それ
だけの事で……

は……
　　↓現世まで続く 想像を絶する辛い修行になると

16 アントニウスを招待

全くこの頃は 人を疑う事を知りませんでした。

既に 嫉妬深い アントニウスの誤解により

私の悪い噂へ男を次々と誑かす悪女だとや ^^ ;

がローマ全土に知れ渡り 私の名誉・品格は口伝えに 落ちて往
きました・・・

何も知らない私は アントニウスを食事に招待しました。

全て政治上の事ですので 男性を全く意識していませんでした。

< アントニウスの船 >

私は 船で来る彼を出迎える為 白いドレスを着て 高台よ
り海を眺めていました。

風がとても心地よく 海も空も青青として とても清々しい
日でした。

< 客間 >

ピンクの薔薇を 敷き詰めた いい香りのする部屋に 彼をお
通し致しました(客間)

私は (淡ピンク+オレンジ)の薔薇が好きなので

そんな薔薇があればいいのに と毎回思っています
た。

彼は 3回位 此方に会いに来てくれました。

< 食事 >

私の右の席に アントニーが座り 食事をしました。

テーブル(幅150×長さ300cm位)に ずらりと(馳走を
並べ

ワインで乾杯する際 大きな真珠(2、3cm)を見せ

「このような物ならいつでも手に入るの」 みたいな事を言い

何かに溶かしながら ワインの杯に入れて 飲んでみせました。

彼は 初めて見るご馳走と この国の豊かさに 圧倒されてい
るようで

かなり緊張していました。

カエサルまで失った私は 次にアントニウスを候補にと考え
持て成しました。

17 アントニウスのプロポーズ

彼から 食事に招待されましたので 伺いました。

「馳走とは言えませんが 「いつも家庭で食べている物」 だそ
うで

私は特に「豆料理」が大好きで どれも美味しくて 全て食べ
てしまいました。 ^^

そして 散歩中 「お食事とても美味しかったです。 全て私
の好きな物ばかりで

とても嬉しい。 毎日でも食べたいくらい好き。 ううん 一生食
べ続けてもいいくらい好きかなあ」

と素直に大喜びをして お礼を言いました。

< プロポーズ >

私の笑顔や 素直な言葉が とても嬉しかったのでしよう

彼から <プロポーズ>をされました。

<プロポーズのお返事>

「私はエジプトです。私と結婚すると言う事は

エジプトと結婚する事と同じなのです。

エジプトと共に生き エジプトと共に 死ねる覚悟が
あり
でしたら

いつでもお待ちしております。」と申しあげました。

この時代は「好きだから結婚」ではなく「政治の為に結婚
する」という感じでした。

彼とは「結婚してから」と言う約束で 何も関係はござい
ませんでした。

^^; 昔も今も 男性を色気で誘惑するような

感じではなく 堅物の方に近い

アントニウスと <正式に結婚> 致しました。

18 アントニーと結婚

私は彼を「アントニー」と呼び

彼は[^][^]；私を「ネフェルティー」と呼んでく
れました。

本当は <ネフェルティティ>ですが 彼には発音が難しいら
しく

ゆっくり 一文字ずつ 何度も教えましたが・ 無理でした
[^][^]；

発音 <ネフェルトユウィッティ>

ウを強く・ ッは素早くはつきりと発音

ひ[^]ティティ[^]名は 私のお気に入り

これでは 母の名と変わらないしー・ ちょっとながかり

< 結婚 >

私は「エジプト」から離れ アントニーのいる此方で 一緒に暮

らす事になりました。

結婚して10年経ちましたが 相変わらず 私への中傷は酷く・

・
アントニーは仲間内に 「何であんな女と結婚したんだ？ 騙されてるに決まってる」

と言われてましたが アントニーは「俺等は今も結婚して10年にもなるんだ」

と言って相手にしませんでした・

< 子供達 >

アントニーには 2人の子供 ㊦女子7歳・男子5歳位㊧があり

私は 息子に「エジプトに残り 子供達と一緒にエジプトを守って
いてほしい」
と頼みました。

「このお兄ちゃんは とても優しいお兄ちゃんだから 必ず守
つてくれるから

離れずに いつも一緒にいなさいね。 大丈夫だからね。」

話し掛けました。

と安心させるように

ゆっくりと優しく

< トマト風呂 >

私はいつも トマト風呂に入り 肌を磨いておりましたが

ある日冗談で 「皆に これ人の生き血よ〜 て言ったら びっくりして 腰抜かしたりして〜」

・ 試しにしてみたら〜？ と清掃の男性〜一人〜に言ってみたら・

じない人 本言に言ったらしく 更に噂が・ ・ ・ ・ ・
^^^冗談が通

> 休日 >

彼と 競技場や 入浴施設を観に行きました。

19 海戦

<アクティウムの海戦 >

2人でよく話し合い 海戦に決定しました。

軍船で 敵を追い詰め、威し目的、降参させる

最も安全で 一人の死者も出さぬ 私の案に決まりました。

しかし実際は アントニーが 「ちょっとだけ降りて戦ってくるから。すぐ戻るから」と

あっという間に 船を降りてしまいました。

暫くして 「敵船が すぐ側まで来ています どう致しますか？」

と急に訊かれ 戦いなど一度も経験した事もない私は 勘違いしとても焦った・・・

私の船の側まで敵が来たと思ったのです。

アントニーは戻ってこないし・・・どうしよう。このままでは 死者を出してしまう・・・

今まで 地上戦では負けた事がないアントニーだから きっと大丈夫。

と 「退散せよ」の命令を下しました。

間違いでした・・・犠牲者を出さぬよう <海戦>にしたはずが・・・

予想外の展開に慌ててしまい 判断を誤りました。

すぐアントニーを船に戻すべきでしたが 気が動転して 考えもつきませんでした・・・

私が撤退⇨アントニーが包囲される とは思いもせず・・・

< 敗戦 >です。

私は エジプトに逃げるよう言いました。

この時 アントニーが必死で 「待ってくれ 待ってくれ・・・」
と追いかけて来ていた事実を

私は 最後まで知りませんでした・・・

つい最近、現世、その事を知り 愕然としました・・・

ああ・・・何て可哀想なことをしてしまったのでしょうか・・・ 胸
が痛みました。

アントニーは まだ海戦に間に合うと・・・ いち早く船を追いかけ
て来たのでした。

後に 「アントニウスは女を追いかけ 一人逃げ出した」 と笑
い者にされた・・・

20 オクタビアヌス

私は エジプトに逃げ帰り 事の成否を 静かに待ちました。

4ヶ月経ち 「アントニーが海で亡くなった」との知らせが入りました。

私は殆んど食事も摂らず その時が来るのを待ちました。

・・・ 恐らく彼は生きていたと思います。

何故なら アントニーの前妻は オクタビアヌスの姉で

2人の子供もいるので。

< オクタビアヌス >

オクタビアヌスが エジプトに来ましたので 私も観念し

彼を丁重に 迎え入れました。

彼の妻は 早くに身体を悪くし 長い間 床に伏していると聞いておりましたので・・・

「奥様のお加減は 如何でしょうか？ 私も予てより存じ上げておりましたが」

心痛く思っております・・・ と彼を労い

自分の置かれている立場を 理解して貰うため

「私も このような時代に生まれなければ 奥様想いの心優しい貴方と

いい友人として 出逢えたのかも知れませんね。」

と話してから 子供達の事について振れました。

「・・・リオンは カエサルの子ではございません。

私の噂も 事実ではないです。 ・ ・ お互い 辛い立場にありますね。

子供達のことですが 心優しい貴方のことですから 必ず安全な場所に

逃がして下さいと思います。」 と話した後

「これは私が一番大切にしていたハ物・・・です。

奥様のお身体が 一日も早く快復されますよう 私が案じて
おりましたと

お伝え下さい」 とハ物・・・を手渡しました。

「お願いがございますが・・・にあります私の物は ア
ントニーのいる海底へ

一緒に沈めて頂けませんか？」 と言いました・・・

21 クレオパトラの自殺

私は2人の侍女に 毒蛇を一匹 籠に入れて持ってくるよう 言いました。

そして 「今まで よく仕えてくれましたね」 と言い 2人を帰らせました。

「毒蛇は 見た目怖くない 薄茶系のソフトな感じの蛇で コブラではない」

私はベッドの上に 静かに寝て 毒蛇に<左の乳首>を噛ませました。

苦しくはなかったと思います・・・。

何故 左の乳首かと言うと 噛まれても痛くなさそう

心臓に近い為 長く苦しまない

遺体を見られても 恥ずかしくな

いように 左乳首にしました。

今でも とぐろを巻いた蛇を見ると 体が凍りつくほど <<
ゾクッ >>とします。

周囲は かなり慌てたと思います。

魂が 肉体から離脱する前に 内臓等処理しなければならないので。

私もギザの「一番小さいピラミッド」メンカウラー に入室し

長い眠りにつきました・・・

民は 「カフラー」東より出ずる人「神」 と同様に

私を 「メンカウラー」同じように神聖な人「神」と呼び

永きに渡り 尊崇してくれていたのです。 . . . 安堵
致しました・・・

メンカウラー王ではございません。

ギザの3大ピラミッド「クフ王を除く」2つは

< 幼馴染と 女王クレオパトラの墓 > 「現世で言う」に

間違いはごぞいません。

父のように 人を持って成し 喜んでもらう事で

家族・民が幸せになる方法があつたのですね・・・

22 ナポレオンの侵入

< ピラミッド入室 >

既に 亡くなっているのにも拘わらず 不思議と何度も目覚めた。

「ああ まだ夜なんだ」と再び眠る・・

そんな感じの ごく普通の快眠で ゆっくりと時が流れて行きました・・

< 嘘のようで本当 >

私は 子供の頃から 胸の上で 「両腕をクロス」左腕が上になり寝るクセ」があり

何だかとても安心して眠れ 最近 ベッドに替えるまで このクセは続いていました。

< ナポレオンの侵入 >

誰かが・・・部屋に入って来ました・・・
気が付きました。
？誰・・・私は漸く

彼がここに侵入して来た目的が何か。
そこで私はいい事を思
いついた。

彼を脅かしてやろくと　^^

「お前の生き胆を喰ってやる」
「早くよこせ」
生き胆をよこせ

この場合　生き胆＝心臓

彼は　びっくり仰天し　飛び出して行きました。
追いかけて行きました。
私も後を

彼は　色白のぽっちゃり系で　髪は茶色　背は低く　まだ
若い男性でした。

そして・・・大砲が3発飛んで来たか　と思つた瞬間

「スフィングスの鼻」に命中し　鼻が欠けてしまいました。

あーっ・・・遣り過ぎてしまった・・・ 私は少し反省しました

^^^;

先日 TVで「ナポレオン博物館」を観ていましたら

私の「金の玉座」・「内臓処理に使用された 金の台座」が

しっかりとそこに写

っていました。

やはり あの色白の若者は 「ナポレオン」でした。

そして彼が エジプトの財宝を持ち帰った事も 事実です。

私の金の台座〓ツタンカーメンの金の台座 同じ物・
同じ作り〓同時期の物です。

<ナポレオン伝説>

彼はその後 まるで「心臓」を守るかのように しっかりと 胸に
手を当てていたそうです。 ^^;

23 ツタンカーメン

私は 「エジプト考古博物館」 に一度だけ行ってみました。

ツタンカーメンが 幼少の頃 使用したとされる

小さな白い椅子に そつと振れてみた瞬間 愛おしさが込み上がり

ああ・・・やはり。 一人息子の「・・・リオン」に間違いないと確信しました。

ツタンカーメン＝王位継承者の称号

<親子の会話>

息子は当時「アントニーの子供達とエジプトにいました」

私がローマより 会いに行くと 「今 狩りを楽しんでる」 と話をしてくれました。

私は 土は凸凹 起伏もあり心配なので

「あそこは とても危険だから 絶対にスピードを出してはいけませんよ」

と言うと 「大丈夫だよ」アントニーの長女と 散歩

して楽しんでいるだけだし。 怖いからスピードは出してないよ」

と言っていましたので 安心しました。

そう・・・息子は 「怖がり」なので 絶対スピードを出すはずがないのです・・・

<私の自殺後>

オクタビアヌスは とても真面目で 約束は必ず守る 信頼の
できる男性なので

子供達を 必ず安全な所へ逃がしてくれたはずで。 それ
が何故・・・?

理由は一つです。 この時 アントニーが生きていたから。

息子ツタンカーメンの居場所を 子供「弟」から上手く聞きだせる

人物で

手下を使い 密かに 連れ戻す事のできる人物

カエサルの暗殺のように 指図を簡単に出せる人物

「アントニーです。」

アントニーの子供達が 前妻ハオクタビアヌスの姉の所に戻されたのなら・・・

子供達から 上手く息子の居場所を 聞き出せたはず。

そして 息子が逃げないよう肢に傷を負わせ 連れ戻し

密かに毒殺させたのだと思います・・・

当時の鎮痛薬「劇薬」で 多量摂取すれば「死亡」する

それをワインハ酒に混入したら・・・

<息子ツタンカーメンの死>

アントニーの子供ハ長女は 酷く悲しみ・・・

逸早くそれに気付き　オクタビアヌス（叔父）に知らせたのだと
思います。

父の「遺品まで奪う計画」を聞いてしまった訳ですから・・・

ツタンカーメンを心から慕い　愛するまでになっていたのですから
・
・

とても辛かったと思います・・・

24 ツタンカーメンの謎

オクタビアヌスは 姪ハアントニーの長女々からの情報に 素早く対処したと思います。

一夜にして ツタンカーメンの遺体と遺品を

別の場所に 移動しなければならないのですから。とても大変だったと思います。

「隠す場所」は限られます。

@一度 「盗掘された」場所で 絶対「人目につかない」
「恰好」の場所

それは・・ 上で盗掘されている場所です。
下

上は盗賊の目を欺く役割をし 下に注意がいけない為

全てが一夜にして 盗まれたとなると 怪しまれます。

何か一つ残す必要があります。 それは 「死者の書」 盗賊
は欲しがらない為。

現在のツタンカーメンの墓に 本来ならずあるべき「死者の書」
です。

< 遺体・遺品の移動 >

移動は 明け方だと考えます。 アントニーを酒で酔いつぶし
て 熟睡させた後だと考えます。

松明を使用すれば 肢がつくでしょうし……

かなり慌しく しかし 静かに移動しなければならない 緊迫し
た中で行われたと推測します。

急いで遺品を収めたので 少々雑に置かれたのではないでしょう
か？

そして 「死者の書」の代わりに 何らかの証拠を残す必要があり

それは 人目に付かない所で 棺の裏側とかに 急いで彫らせたのではないでしょうか？

遺体・遺品の「移動や保護」に関する事です。

< 時代のズレ >

棺上の「矢車草」は 以前から そこにあつた花ではないでしょうか？

誰のお墓かは存知ませんが ……心の籠ったそれを 捨てる事はできないはずですよ。

棺の上に 置かれた理由は その方への「敬意」の顕れです。

オクタビアヌスは 偉大なる先人に「敬意」と「埋葬の許し」を請う為

「偉大なる先人よ　どうか貴方様のお力により　ここにお
ります子供達を

あらゆる盗賊の目から　永遠にお守り下さい」

と祈りを込め　ここを立ち去ったと思います……

解るのです……彼の気持ち……

そして祈りは聞き届けられた

息子ハツタンカーメンへの花は　別の所へ入口にあると思
います。

酒による毒殺を意味する　ハワイン壺？とお花が　そつと置かれ
てはいないでしょうか……

それが密かにできるのは　ただ一人。

エジプトで息子と長く暮らし 愛情を注いでくれた女性" アント
ニーの長女です。

そして棺の中の 二体のミイラ(幼児)は オクタビアヌス
のお子様達です・・

奥様は 早くに子供を亡くされて 以来ご病気で とても辛い思
いをされていましたから・・

生まれ変わりを望んでの 「 親心 」 からでしょう・・・

心優しい息子に 二人の子供を託したのだと思います・

・ 一緒に神の許へと

そして オクタビアヌスは 息子の遺体・遺品の「保護」もし
て下さいました・・

お礼を言います

25

クレオパトラ7世とツタンカーメンの関係

<クレオパトラと ツタンカーメンは 間違いなく親子
です>

@ピラミッドハメンカウラーの遺体と ツタンカーメンの遺体の
DNA鑑定を行なって下さい。

@ネフェルティティの小彫像は 唯一 王位継承者である証拠と
なります。

これは当時の 王位継承者のみが着用できる正装です。

ネフェルティティ 女王クレオパトラです

@ツタンカーメンの墓ハ入口に置かれた 花・壺をよく調べてみ
て下さい。

棺の上のお花は 以前そこに埋葬されていた方の 花なので
違います。

@ツタンカーメンの棺の 裏側 をよく調べて下さい。

急いで雑に彫られています。必ず遺体・遺品を保護する為に

場所を移動した事が 残されてていると思います。

クレオパトラハネフェルティティの子供と彫られていましたらいいのですが・・・

その時間はなかったと思います。

@ツタンカーメンの内臓処置に使用された 金の台座と

ナポレオン博物館にある 金の台座をよく調べて下さい。 同じ物です。

血液は拭き取られていても 洗い流していない為 裏側もよく調べるとよいです。

証明は難しいかも知れませんが・・・

<アントニウスの自殺>

アントニウスの余りにも酷い仕打ちに オクタ비아ヌスは
私と最後に交わした言葉「全てを 」

彼に話したのではないでしょうか・・・

この後 アントニーは自殺したと思います・・・

「私の遺体と共に 自分の亡骸も埋葬してくれ」 と残して・・・

詩 < 時を超えて >

・・・僕は長い時を ずっと待ち続けていた・・・

何度も生まれ変わり 巡り逢ったと云うのに・・・

掴もうとすると 儂く消えてゆく・・・

・・・そんな寂しい夢を 何度となく・・・

・・・僕は ここにいるよ・・・

探し続けていた・・・何か大切なもの・・・

やっと みつけたよ

た。
輪廻転生〃 「無償の愛」を学ぶ修行 だと思いまし

楊貴妃く未来については・・・何だか疲れましたので ^^ ;
すみません」

少しだけですがく未来について>

何も 心配する事はないと思います。

地球・肉体も再生され 人々は宇宙へと 旅立つ日が 必ず来ると
思います。

残された時間を ゆっくり楽しみたいと思います。

26 エジプト追記

<労働者>

私は一度だけ ピラミッド建設の視察に行きました。

各場所で5分程度 責任者と話をしました。

労働者は数十分の作業と15分の休憩があり長時間の労働ではありませんでした。

ピラミッドの上部では 一角に水分補給・食べ物も用意されており 20分に一度は休憩をしながら 交代で作業を行っていた。

* 大きな石を引っ張る時は 石の下に「ローラーのような棒」があり

何か液体を掛けながら 一気に4mほどサイドからロープで引っ張っていたようです。(片側12〜14人位)
労働者がロープを肩にのせるような 痛い思いはしていません。

* 人員募集に3ヶ月、建造に5年(2つのピラミッドを同時に造りました)

<ピラミッド>

ピラミッド自体は 再生の目的で「太陽神」の信仰を

その位置は権力を示す「星信仰」

ピラミッドの大きさは権力とは関係なく その「位置」がとても重要でした。

オリオン座か北極星?・・・とにかく

一番力を持つ星の位置に私のピラミッド「メンカウラー」を建てました。

権力の象徴を 「星の位置」で示した為 小さなピラミッドとなりました。

建設後、幼馴染と2つのピラミッドを見に行きました。

まず ピラミッドの後ろ側から見ました。

幼馴染のはとても大きく 彼は誇らし気に 「あれ?そっちは小さいなあ」

と私をからかいましたが 大きさは関係ないので気にしませんでした。

次にスフィンクス側から見ました。・・・ ^^;

スフィンクスの顔を見て 彼にまたからかわれました。

エラが張っていて 顎がしゃくれてて 凄く恥ずかしい^^;

その特徴的な顔に ガツカリしました。 ^^ ; 全て任せつきりで・・・

気を取り直そうと私は 美しかった16才の時の全身姿を イシス女神像に似せて

神殿の壁に大きく彫らせ彼に自慢しました。

<カフラー・メンカウラー>

ラー 太陽の神

若くして亡くなった幼馴染を いつまでも忘れないでほしいから・・・

太陽の神聖な意味と彼を重ね 東より出ずる 人 太陽の神

カフラーと呼び

カフ

ラー

尊崇するよう 私が民に言い渡しました。

カフラーは名前ではないのです・・・

私達は「クフ王」の子・孫でもありません

2つのピラミッドも「クフ王」とは全く関係ございません。

広い土地のエジプトで 偶然見つけたピラミッドを

「肉体再生」と知り、気楽にまねただけ。

「この隣に建てようか？」 「うん そうしよう」 みたいな感じで。

まねただけなので 当然 内部の構造も違います。

誰かに聞いた話を信じ

「ピラミッドは肉体を再生し 甦る」と思い込んだだけなのです。

いつの時代でも常識とかは 正しくないようですね・・・^^；

<ツタンカーメンの黄金>

私も息子も 民と同様 普通に平和に暮らしていました。

誰も黄金は必要としていませんでしたから 死後 埋葬時に作られた物が殆んどです。

副葬品の金椅子は 公務の為に造られた物。 「椅子が欲しいです」と一言いえば

勝手に黄金の椅子が届けられただけの事です。

クレオパトラ
私のネックレスも 公務用の物が一つ、
普段の着替え用服は3着でした。

<思い込み>

ピラミッド建築時 当然 死後は 再生・復活の為にピラミッドに入る。

でもピラミッド内は 食料を入れたりしてましたので。

遺体は ピラミッド内ではなく 少し地下にあるのでは。

全ては人任せでしたので。

確かに幼馴染の遺体は 緩やかな下り坂を真つ直ぐ行ったへ暗くない通路への先に

安置されていました。 私は最後のお別れをして そこを出ただけなので・・・

そこがピラミッド内か 地下かは よく見ておりませんが・・・

やはり ピラミッドの地下へと続く通路だと思えます。

私の遺体も ピラミッド内と思っておりましたが ハッキリとは・・・

全て人任せでしたので。 ナポレオンによる盗掘は間違いございません。

もし スフィンクスへ地下への右前足 左斜め45度前方へ左前足斜め45度前方にかけて 何か出土したら

それは私の使用していた 銅板の丸い鏡・ネックレス・アイシャドウ・ドレスなど

ドレスアップの為の遺品の一部かもしれない。

<象形文字の解読の間違いについて>

エジプト時代、息子・リヨン・シーザリオン・ツタンカーメンと10年生活を共にした女性・アントニーの子供々がいますが、解読を間違っています。

「一番年上は10歳になる・・・で次は・・・」です。

ツタンカーメンが10歳と言う意味で 女性が10歳年上ではありません。

つまり息子は 10歳の時から母に代わりエジプトにいました。

母・ネフェルティティ・クレオパトラにエジプトを守るよう頼まれて。

その頃 母はアントニーと結婚し ローマで過ごしていました。

息子が成長し 自分の体に合う椅子が必要となり「公務用」

その椅子のデザインを 仲良く2人で考えていました「アントニーの長女と」

「素敵な椅子ができた」と 2人はとても喜んでいました。

「どんな椅子を見せて」と私が言うと

「今は恥ずかしいから」と2人は照れていました。^^

現代になり 息子のサンダルを仲良く履いた2人の姿「絵」だと知りました。

これからは愛の溢れる国、「愛の国」にしようと 2人は張りきつ

ていました。^^
心優しい息子とアントニーの長女は 惹かれ合い
お互いなくてはならない存在となり・・・心から愛するようになっていたのです・・・

<ツタンカーメンはネフェルティティハクレオパトラ7世の息子>

ネフェルティティは義母ではありません。 ツタンカーメンの実母です。

夫・姑は 息子と遺伝学上同じです。

夫と息子だけ調べないで 夫と姑の鑑定も必要です。

私のミイラハネフェルティティハクレオパトラ7世は
ギザの3大ピラミッドハ小さいの地下部分にあります。

私の遺体と ツタンカーメンの遺体のDNA鑑定で 全てが明らかになると思います。

<ネフェルティティについて>

2009.3.21 NHK放送「TV」は殆んど嘘です。

夫アクエンアテンハイクナテンの妻の名が 「ネフェルティティ」

ネフェルティティは人を鞭打ちしたり 暗殺など一切していません。

夫の側室もいません。 気の強い姑「キヤ？」がいて 私の息子は

姑に取られた状態でした・・・ 夫は心優しいお方でしたが

母には逆らえない人でした。

息子が生まれて暫くして 私の父が亡くなりました。

王位の後継者は もう私一人なので息子を残し ここを出ました。

心優しい夫は 心痛から病気になったのです……。

イクナテンの墓の近くに 私が入る墓も造られていましたが……

私が戻る事はなく 棺に石を詰め そのままとなりました。

<夫アクエンアテンはエジプトのファラオではない>

ハッキリ言いますが 夫は ^{イクナテン}エジプトのファラオではありません。

当時 まあまあ位の高い者達は死者の谷に 皆 埋葬されていました。

私の記憶では ファラオは ラムセス2世夫婦、ハトシエプスト女王です。

<ツタンカーメンの埋葬について>

オクタビアヌスの配慮により 家族（亡父）の埋葬付近に 良い場所がないか探させた（上下盗掘された） 奇跡的にもすぐ見つかり

この場所（偶然に父の墓の側）に急遽 埋葬した。

一部の歴代の王の名を削り（恰もここに記されていたかのように）

暗殺を企てたアントニウス「アントニー」の略「A I」を密かに刻んだ！

アントニーの長女は 草花で編んだ首飾りを

大好きだったシーザリオンの首に そつと忍ばせ……そこを出ました。

出会った頃の思い出

私と息子は アントニーの子供達と一緒に、お花畑で「花の首飾り」を作って

よく遊んでいました。

「誰が一番綺麗な首飾りを作れるかなあ〜！」と競争して ^^
アントニーの長女の出来は 素晴しく美しく

とても子供が作ったとは思えないほどでした！ ^^

私が凄く褒めてあげると 夢中になって毎日のように作っていました。 ^^

首飾りの作り方を教えたのは私・

あの頃の平和な時が 唯一 私達の楽しい思い出でした・

「お花の首飾りをどうもありがとう」

ピラミッド建築期間

息子が2才半位の頃 私は家を出て即位し ピラミッド建築後 幼馴染が亡くなりピラミッドに埋葬された。

9歳の息子がエジプトに来たのが6年後なので……

ピラミッド建築に 5年掛かりました。

『息子（9歳）はシーザリオンと名を改め 私の後継者とする』と公表しました。

翌年ユリウス・カエサルへユリおじちゃん〴〵シーザーは暗殺され 私はアントニウスと結婚（息子10歳の時）しました。

<私の最後の時>

アクティユウムの海戦からエジプトに逃げ帰った時は 真夜中、左後方に 月明かりに照らされたスフィンクス・ピラミッドを眺めながら

一人寂しく歩いた・・・（アレクサンドリアの神殿に向かい北上）着いた時は朝11時頃でした。

神殿の私の部屋（イシス女神像のある部屋）で 最後の時を迎えた・

戦いは突然の事で 私の意思に関係なく決定された・・・
アントニーの発言により 「戦う事になったから」と・・・
この海戦は オクタ비아ヌス側を軍船で 一カ所に追い込むだけ「威し」の作戦で

私が犠牲者を一人も出さない為に考えました・・・
陸上の戦いは一切せず 発砲もせず 死者を出さず 。

ですが・・・ アントニーは船を降り 地上戦を勝手に始めてしまいました・・・

私は一切 攻撃もしなかったのだから 死ぬ必要はなかったのかも知れませんが

アントニーの死（偽報だった）と 地上戦で亡くなった兵
海戦の責任もあり 自殺の道を選びました。

今、後悔しています・・・ 息子にとっても辛い思いをさせてしまい（一緒に暮らした日々は少なく寂しい毎日だったと・・・）

そして残された者が 悲惨な道を辿る事になるとは 思いもしなかった・・・

（息子の暗殺・・・逃げぬよう 脚の大腿骨にまで深く傷を負わされ連れ戻され劇薬により暗殺された）

その後エジプトはローマの支配下となり 民は奴隷となりました。

私一人の力で 政治を行ってれば 誰一人死なず 平和に暮らす
事ができたのだと思います。 「ハトシエプスト女王」のように
・・・。
民からとても慕われ 争いを起さず 生涯 女王の勤めを果たした
尊敬するお方です。
何故 気が付かなかったのでしょうか・・・
女王の立場を真剣に考える余裕・時間は 私にはございませんでし
た・・・

クレオパトラ 27追記 <姉の墓>

2009.8.2放送 NHKスペシャル「エジプト発掘第3集」
21:00は

殆んど全てが嘘です。 姉はいましたが。 姉妹で争った事など全く
ございません。

姉は母に似て

ギリシャ系で透き通るような色白、華奢な体型で 黒髪ではないの
です。

見た目もリカちゃん人形のように 可愛い感じでした。

クレオパトラは父似で 姉のように色白ではありませんが

手足・首筋などスラリと長く 背筋 腰の締まった

とても美しい体型が自慢でした。

クレオパトラも姉と同じく 黒髪ではない。

黒カツラ・メイクは 要人を招いた時だけ。

クレオパトラは父似でしたから 父のように「飲んべ〜」にならな
いように

祖母に幼少の頃より 色々教育をさせられてきました。

姉が男性への妻のいる〜を追って家を出たため

すでに嫁に行っていた私が仕方なく戻り

エジプトの女王になりました。

姉は妻のいる男性との不倫により 宗教上の理由で処刑されたと

アレクサンドリアへの神殿への私のもとに 連絡が入りました・・・

確かに姉は トルコ方面に行きましたので その骨は姉の可能性が

高いです。

ツタンカーメンと遺伝学上「DNA」一致します。調べて下さい。
考古学の ツタンカーメンの時代「歴史」が一変するでしょう。

<クレオパトラの姉の墓>

「お墓を何処にどのように建てますか？」と使者に聞かれ 私は
プトレマイオス家の名誉・姉の誇りを守る為

町の中心に 高く最低でも三階以上ある
大きさも高貴な姉が
恥をかかないような大きさでお願いします・・・と伝えました・・・

六角形の墓は プトレマイオスの象徴である限りなく円に近い形。

「どこもでも丸く・・・穏やかに円満に」

輪々和を意味します。

姉のような悲劇が 二度と起こらぬよう・・・皆に少しでも解って欲
しくて

町の中心に建てました・・・

姉が埋葬された日から 一番上の階に 毎朝 白いカサブランカ
の花が

絶える事無く 手向けられていたそうです・・・ 色白で

高貴な姉にふさわしい花・・・ 白のカサブランカの花言葉は

「純潔な永久の愛」を意味します。

姉を心から愛していた恋人だと思えます・・・

「全て僕が悪かった・・・許してくれ・・・」と祈るように・・・

ある日の朝 一番上の階は 白いカサブランカの花でいっぱい埋
め尽され

朝日に照らされ それはもう真っ白に美しく輝いていたそうです。

その日を境に 彼は来なくなり・・・ 姉の後を追いつくなられた・・・

「人を深く愛し 愛を貰った・・・」

哀れで・・・なんて可哀想な事をしたと・・・それからは町の人々も

代わる代わる白い花を そつと下の階に 絶える事無く
手向けてくれくようになりました・・・

話は変わりますが――――

<前世>油問屋の娘の時代

私はアントニーの生まれ変わりの男性に惨殺されました。

たった1つの言葉による誤解からでした。

エジプト時代では自殺。

<前世> イエス、シーザリオン、ツタンカーメンの死は 同一人物による

居場所の密告と暗殺です。ハアントニーとその息子

小野小町時代は 一人の男性ハエジプトの幼馴染が来るのを心待ちしていました

約束の夜 彼は大雪に足を取られ亡くなりました・・・

私に会いに来る途中だったらしいです・・・

私は生涯独身 男性経験もなく過ごしました。 私に関わらなければ・・・

楊貴妃の時代では 義理の息子ハ玄宗皇帝の子ハはアントニーの生まれ変わりです。

私は 彼と彼の付き人ハ力士ハの策略で 自殺に追い込まれました。

力士ハアントニーの息子の生まれ変わり。

つまり 彼らに関わりあうと 私達親子は・・・自殺、暗殺

生まれ変わりでは その殆んどが同じ人。

過去と似た状況・想いを何度も繰り返し経験するのです。

今世、何とか蒔いた種を刈り取る事ができました。

後はゆっくりと残された時間を親子で楽しみたいと思います。

28 一休「千菊丸」

元旦誕生 後小松天皇の子

名は「千菊丸」後の「一休宗純」です。 天皇直系の最後の血筋になります。

4歳10月 安国寺（現在の寺名で、当時は別名だった）へ行く。

当時は 寺に入ることでしたか 天皇への近道がございました。
私は 千菊丸が 最後の天皇の子なので 暗殺を企てる者も出ると
思い 寺に預けることにしました。

「お父様のような立派な方になるのですよ・・・そうすれば
お父様と会えますからね・・・」 と言い寺に連れて行きました・・・

和尚に「くれぐれも天皇の子だと分からぬよう 皆には内緒にして
欲しい」

とお願いをしました。
和尚は「預かるくらいならできますが・・・」と言われました。

私は公家の出です。 子供の頃から 身の回りの世話は 乳母へ
付き人^ㇿが

全てしてくれ 自分では何一つ出来ませんでした。

子供の世話を母がするような 普通の暮らしではなく・・・

世間とは全く別の世界にいた人間なのです・・・

寺の和尚なら 千菊丸も安心して預けられる 立派にして貰えると
勝手に思っていました・・・

私は世間の事を全く知らなかった・・・ 寺の事も何もかも・・・

<南北朝の動乱について>

私へ南朝へと後小松天皇へ北朝へが結婚する前　すでに夫側である北朝は　衰退していました。　姑の出は血統もなく　後小松天皇の血筋は　もう直系ではなかったのです。

南朝へ私へは直系でしたので　絶えることなく　繁栄してきました。　つまり女系家族で　女が子を産み・・・代々続いてきました。

私が北朝へ夫側への嫁に行く事になり　父が私の身を案じ　南朝側から和解を申し出た。

「南北朝の和解」です。

しかし、私が嫁に行ったと同時に、　北朝側は　急に横柄な態度をとるようになり

南朝側に　無理難題を言い　酷い嫌がらせをするのでした・・・

私は　姑・義理姉達から　酷い扱いを受け　疎外されて

身ごもった私は

とても辛い思いをしました・・・食事もあり食べれず・・・塩漬

けのとても食べられないほど辛い　山菜だけを与えられました・・・

私は　妊娠中毒症に・・・

父に文を出しましたが・・・

やはりお腹の子の為には・・・片親にするわけには・・・

優しい父へ南朝へは　私の為に　「子供も生まれる事だし　仲良

くして欲しい」と

頭を下げてくれました。

私が臨月を迎えると　突然、姑・義理姉達が来て　「子供は別の所

で生むように」と

私をボロ家に　無理やり連れて行きました。

姑・義理姉達は　私を追い出し　北朝の再興を企てていたのでした。

その間 私の事を 「あれは側室」と 嘘を言い触らし

「父が〆私の事で〆北朝側に頭を下げた」のを

恰も 「南朝が北朝に頭を下げた」と 触れ回った。

心優しい父は 反論できなかつた．．． 私と可愛い孫の為に．．

この事が原因で 立場が逆転してしまいました．．．

つまり 私と子供は人質のような．．．

そして 全ての南朝の人達が 京より追放され 貧しい暮らしになりました．．．

私は出産しましたが 赤子はすぐに取り上げられ 連れて行かれま
した．．．

この時 一度でも我が子の顔を見て 乳を吸わせる事ができたなら．

我が子だと認識でき 手放す事も絶対になかつた．．．

私が戻ると 夫・子にも会わせて貰えず 「出て行くように」と追
い出された．．．

産後の肥立ちも心配で 私は無理が出来ず 子を取り戻す事もでき
なかつた．．．

私と乳母は 京よりなるべく遠い所まで 歩いて行き 貧乏な暮らし
をする事になった。

後小松天皇は とても優しい方でした．．．

本当なら〆父・母・子と〆温かな温もりの中で 幸せな暮らしがで
きたはずです．．．

千菊丸も天皇となり きっと 争いのない愛に満ちた 平和な世を
築いたと思います。

「姑・義理姉達の 策略さえなければ」

千菊丸は 北朝へ後小松天皇と 南朝へ私・天皇直系の血筋の子で

正真正銘 「最後の天皇」です。

後小松天皇は 最愛の妻を無くした心労から ご病気になられ亡くなりました・・・

姑も亡くなり 保護者のなくなった千菊丸は一人に・・・幼い為 天皇の道も絶たれた・・・

・・・そして私の所へ。

「天皇」の身でありながら 乞食以下の苛酷な人生となりました・・・
全て私のせいです・・・本当に申し訳ない・・・涙

<寺>

正月前 皆がはしゃいでいた。 家に帰ったら餅つきとか色々

楽しいぞー！

凄く お餅は美味しいんだ！と皆 嬉しそうにしていた。

正月は家に帰ってもよいと決められていたから・・・僕も凄く楽し

みにしていた・・・ お餅突きも 初めてだし お餅が食べれる

！と とても楽しみにしていた・・・

だが正月前へ朝11時 皆が帰っても 僕だけ誰も迎えには来て

くれなかった・・・

帰りたくても道が分からない・・・一人ぼつんと残され日が暮れた・・・

9日間 昼も夜も独りぼつち・・・お腹へった 寒い暗い怖いよう・・・と

何日も泣いていた・・・とても長く感じた・・・寒さと飢えで餓死寸前になった・・・

部屋の隅で ぐったり倒れていた所を 発見された・・・
和尚は仰天し

「早く重湯を沸かすのじゃ」
・・・ 何とか命を取り留めた

愚かな母でした・・・寺から朝11時には迎えに来て下さいと 手紙が届いていた・・・

乳母「付き人」が9時50分頃 「これから寺に 千菊丸様のお迎えに行つてきます」

と言つたので 「行つてはなりません」と言いました・・・
乳母は「でも・・・」と心配そうにしていました・・・

私は寺には和尚さんがいるから 大丈夫と誤解していました・・・
和尚は皆帰つたと思ひ 出かけられた・・・

私は母親失格です・・・ 馬鹿な親を持つと子供は不幸です・・・

寺は 進学学校「寄宿舎」みたいな所で 預ければ何とかしてくれる所ではなかった・・・

公家の出の私は 何一つ世間を知りませんでした・・・

一休は寺で 人に物をねだらぬよう 厳しく躰られた・・・

子供でも容赦のない戒律・・・毎日托鉢に行かなければ 食べる事もできなかつた。

人からの施しでしか 生きては行けない厳しい世界でした・・・

食事は 朝・夕2回のみ・・・一汁一菜。 大根菜などの汁と漬物・重湯が少しだけ。

幼児の一休には 硬くて噛み切れず 飲み込むのも無理でした・・・
「僕 食べれない 硬くて飲み込めない・・・お腹しゅいた・・・」

歯もまだ小さく 生え揃つてない 噛む力もない幼児でした・・・
本当なら 一日5食。 卵や乳・豆腐など 消化吸収の良い食物が必要でした・・・

「まだ寺入りするには早すぎる」と 何度も和尚から言われましたが・・・

愚かな母には　その意味さえ分かりませんでした・・・
今になり・・・人の話は　何度もよく聞き　自分も色々聞かなければ
何も分からないのだと気付きました・・・

寺入りして3ヶ月、一月31日

食事の摂れない一休は　帰るように言われ　途中まで連れられて帰
つて来ました。

まだ帰る道も覚えてなかったと思います・・・

> 京都・山間近く<

山から吹き降ろす強く冷たい風・みぞれ混じりの雨の中

素足に草鞋を履き　笠も蓑もない　母に貰った薄地の着物へ膝まで
の短丈で

震えながら　母の家まで歩いた・・・雨は雪になり　積もり・・・

素足に草履だけで　雪の中を　3時間半歩き続けた！　指

が凍え痛い・・・

もう僕しんどくて歩けない！　ひと休みひと休み泣きながら歩き続
けた！

「辛くても母に会える・お家に帰れる」と頑張った・・・

やっと母の家に着いた・・・　3時15分頃でした。

乳母が「千菊丸様がおいでになりました」と・・・

私は　母恋しさに　寺に内緒で来た　勘違いをし　帰るよう言い
ました・・・

乳母が慌てて　「雪道で草鞋しか履いておられません」と・・・

驚いた私は　「これを千菊丸に」と　わらで編んだ雪靴を渡しま
した・・・

私はいつも乳母の世話になり　何不自由のない生活しかしてきま

せんでした・・・

千菊丸が来たのも　何かどうしても必要な物が・・・　何かの理

由がある時・・・

なのに 我が子の顔を 一度も見ることなく 話もせずに 追い帰してしまつた・・・

「母に寺へ帰りなさい」と言われ

泣きながら 凍えた体での帰り道・・・何度も振り返り 遠く明かりの灯る

母の家を眺めては・・・涙をこぼし・・・暗闇の中 石段を上り 夜8時過ぎて寺に帰る。

「千菊丸が 凍えた体で帰つて来た」と聞いた和尚は

「なんと。早く湯を沸かすのじゃ」と慌てて・・・ 低体温症になり

震えの止まらぬ体を

温めてくれた・・・

千菊丸は お風呂の中で ずっと俯いたまま 泣いていた
そうです・・・

温かで 全てが有る母の所から 何もない所へ帰らなければならぬ
い悲しさ・・・

風吹かば吹け！ 雨降らば降れ！ 『僕は一人で生きて行く』

石段を少し上がっては ひと休み ひと休み

愛も 温もりも 食べ物も 温かな服も布団もない 何もない所へ・・・

幼児の足では 往復8時間半は掛かつた・・・
もう歩けない！歩けないよう・・・！ 日も暮れてゆく・・・
雪は雨となり 風が冷たく 肌に突き刺さる・・・
どんなにか辛かつた事でしょう・・・ 酷い母です・・・涙・・・
私は我が子を凍てつく寒さの中へ捨てたのです・・・

冬の寒さも生活も 全ての事が何も分からない母でした・・・
子供の事も分からない・・・

往復8時間半歩くのは 大人でもとてもキツイ・・・
それに 幼児の頭は大きく 寺の石段は 体がふらつき非常に危険
なのです。

何度も転び 頭部を酷く切り大出血したり 前歯を3本折る大怪我
をしました。

真っ青に歯茎が腫れ上がり 痛くて震え 暫く 物が食べられませ
んでした・・・

足の指を骨折したこともあります・・・

石段を下りるだけでも 35分 上がるとなると1時間は掛かる・・・

公家の出の母は 他の事は何もできなかった。子供の頃から乳母が
全てしていたので。ただ1日中温かい部屋で 人から教えてもら
った 内職だけをして暮らしていた・・・

正月休みは皆 裕福な親の家に帰って 思い切り甘えて 美味しい
物を

お腹いっぱい食べ 色んな物を沢山持ち帰り とても自慢していた。
・・・僕は一人ぼっち 辛い・・・正月でも僕一人だけ帰れなかった

・・・
托鉢に行かなければならない・・・誕生日も誰一人祝ってくれる人
もない・・・

和尚から「5歳では早すぎる、せめて6歳になってから」と言われ
た。

私は意味が理解できなかった。 天皇の子を預けているだけなの
に・・・

<6歳> 正式に頭髪を剃り僧侶となる。

名前は周建！ハ戒名

まだ頭皮も柔らかい幼児です・・・

剃るのもカミソリではなく！ 強引にそぐように銚り取るのです・・・

大人でも かなり痛いのです！ 『ひいー！痛いよー！お母た

またしゅけて』と それは酷く泣いたそうです・・・ 涙・・・

幼児の頭蓋骨は 大人と違い 中央が閉じておらず 開いた状態
なので

柔らかな 皮膚だけで被われている・・・

大人の力で 強く何度も何度もこすられたら・・・

大人より何十倍も痛かったでしょう・・・

狂うほど痛かったのだと思います・・・ とても残酷な事をを

しました・・・涙・涙

出血もしたと思います・・・ 酷い虐待！拷問と同じです！・・・

涙・涙

大人がよってたかつて！ 人間や僧侶のする事ではない！

頭の毛を剃られた後の 酷く腫れ上がった頭を見て 私はとても不

安になりました・・・

気付くのが遅すぎたのです・・・ 僧侶ハ仏門入りさせられるとは

思ってもいなかった。

暫くは 腫れが続くので そっとしておいて下さいと・そして 『

よく頑張った！』と

誉めてやって下さいと言われました・

< 6歳・頭の髪の毛を剃る >

大層な儀式に 「今更、連れて帰ります」とは 言えなくなりまして・・・

「全て、勘違いをしていた」とは・・・

情けない・・・勇気を振り絞り 母として連れ戻すべきでした・・・
私は千菊丸に 「よく頑張りましたね、偉いですよ」

「お父上もきつと誉めて下さいますからね」

「あなたの好きな 甘いお菓子がありますからね」

後でゆつくりとお食べなさい・・・」

と言いました・・・痛いでしょう・・・千菊丸は 俯いたまま 少し頷きました・・・

この時 母に 頭を優しく撫でて欲しかったのだと思います・・・

優しく抱きしめて欲しかったのだと・・・ 涙

髪はすぐに伸びます・・・2ヶ月半に1度は 痛い思いをしたでしょう・・・涙

やっと痛みがなくなりかけたと思ったら・・・まだ酷い目に・・・涙
代わってやりたいです・・・

翌日から 子供とて容赦のない 苛酷な生活が待っていました・・・
凍える手足で 水汲み・拭き掃除・便所掃除・洗濯・庭掃き・薪拾い・・・

涙

靴下も無く 膝までの薄着服一枚で・・・

おねしょも何度もしたと思います・・・
薄い掛け布団に 包まり「寒いよう」と泣いて震えていたと思います・・・

ずっと後の事ですが・・・熱を出し 私が見舞いに行ったとき

「何か必要な物がありますか？」と尋ねましたら 他のお坊さんから

「もう少し大きい布団にしてあげて下さいませんか？」と言わ

れました・・・

もつと厚みのある 大きくて温かい布団の意味です・・・
私には意味が良く解かりませんでした・・・薄地でやや大き目の物
を持って行きました。

公家の出です・・・子供の事・生活用品など

全て暮らす上での 一般知識がありませんでした・・・

毎日の托鉢 雨・雪の日でも出なければ 食べさせては貰えない・・・

私は 蓑・笠も持たせていなかった・・・

「僕 濡れるから托鉢に行けなかった・・・」「お前に食べさせる物
はない」

と言われ泣いていたと思います・・・

「家まで行つて 笠・蓑を貰つて来い」と言われたと思います・・・
可哀想な事をしました・・・涙

托鉢で 1番近い家で 往復3時間15分位は掛かる・・・
幼児の足で「

2番目の所で 4時間25分位

いつもいつも 近くにとはいかない・・・

華やかな京とは違い 皆貧しい暮らしをしていましたから・・・

同じ場所での托鉢は とても辛かったと思います・・・

良い人ばかりではありませんから・・・中には酷い事を言う人もい
ます・・・

私は 外の厳しい寒さも知らないで育ち 冬、外出をしたことも一
度も無かった・・・

私は千菊丸が来た時も 1時間半位で 寺に帰れる「だろう」と思
っていました・・・

往復する辛さや 厳しい寒さなども 分かつてはいませんでした・・・

いつも「だろう・だから大丈夫」で過ごして来たのです。

< 12歳建仁寺〜16歳〜?寺 >

ここは特に裕福な家の子の集まりばかりで 色褪せ継はぎもある
穴も開いたような服を着て来た 貧しい周建は肩身が狭く 酷い
じめに……

皆から白い目でじろじろ見られ 一人のけ者にされた……

何も持っていないから…… 子供の頃に 母から貰った僅かな物を

ボロボロになつても大事にしていた……

一休が寺入りした時 初めに持たせた物……

それ以降 私は何もしてなかった……

初日 夜 皆の布団が敷き詰めてあった……一つだけ空きがあつたので

もしかして自分の為に用意されたのかな と思い 布団に入った。

違つてた……後から人が来た坊主が 怒り狂い

何度も何度も 手加減無く 目を執拗になぐり 生えかけた髪を曳きぬいた……

瞼は紫色に 腫れ上がり 頭皮は一部捲れて中の…… 血と肉片と毛が落ちた……

私が 用意して持たせなければ 何もない状況でした…… 涙

人の施しでしか生きられない世界でした……親が持たせなければ 何一つない……

皆に 『欲しかったら 恵んで下さいと言つたらやるよ』と

乞食扱いされ 馬鹿にされ続けても 『修行修行!』と

物を貰う代わりに 人の嫌がる仕事を全てやり 耐え続けた!

悔しい! 惨めだったが 母に会う為には……

周建は5歳の時から 7年修行してきましたが ここにいるお坊さんの中で

7年以上の方はいるのかどうか……若くても修行僧としては先輩

です。

18歳正月前 皆が浮かれて楽しそうにはしゃいでいた！

僕には・・・ 正月は死にかけた辛い思い出しかなかった・・・！

誕生日も祝ってもらった事など 一度もない！

何で自分だけが！ 何で僕だけ母に会えないんだ！

何で僕の母だけ何もくれないんだ！

悔しさと怒り ・死にたいほどの悲しみで自亡自棄になった！

きつとこの時 何かがあったのではと思います・・・とても

酷いいじめが・・・

今まで少しずつ 正月前誰かに 食物を貰い 正月をやり過ごしてきた・・・が

急に皆冷たく拒否してきた・・・「修行」と言い、代わりに何かを貰いながら・・・

でも、それを妬む者がいたのだ・・・「自分だけ良い子ぶりやがって」と・・・

またあの時へ5歳々みたいに 餓死しかけると言うのか・・・

切羽詰り 辛さと怒りで 気が変になりかけていた・・・

自分に話し掛けるように・・・「用心しなければ 用心しなければ・・・

・あの時みたいに」と ぶつぶつ言いながら 托鉢に出かけたのでは・・・ 涙

ドクロを付けた杖を持ち 『ご用心・・・ご用心・・・』と村を練り歩いていた・・・

・・・また5歳の時の自分みたいになると・・・誰かに心の痛みを解かって欲しかった・・・

気付いてほしかったのです・・・ ドクロは自分の姿を示していました・・・

でも・・・ 周囲には理解してもらえなかった・・・

正月 食べる物もなく一人過ごした・・・

この時代 殆どどの僧侶は 僧になりたくて仏門入りした訳ではなく
裕福な家庭で育ち 我がままし放題の子供に手をやいて 親が入門
させていた。

正月家に帰れば 肉・魚も当然食べ 楽しく過ごしていた・・・
栄養のある美味しい物を食べ 温かく過ごした・・・
和尚とて同じでした・・・酒を飲み 肉を喰らい 女とも・・・
高僧も同じでした・・・ ごく一部の修行僧以外は皆。 安国
寺の和尚も・・・

人間 美味しい物を食べ 楽しく過ごし ある程度

「息抜き」は必要だが・・・ 要領良く皆やっていた・・・
周建のように 遠くから来た者はいたのでしょうか・・・
他のお坊さんは 本当に毎日 托鉢に行っていたのでしょうか・・・
寺から一歩 外に出たら ばれないし・・・家に帰り食事をし のん
びりしていたと思う。

そして数日分の 托鉢「食料」朝・夕」を持って帰っていた・・・
和尚も毎夜 こっそり自由にしていたらしい・・・
真面目に頑張っていた周建が 可哀想でならない・・・
僧侶と言っても名ばかりで こんな人達は 僧侶の資格は無い。

要領がいいだけの卑怯者なんて 私は大嫌いです。

一休は

「幼児でも容赦のない惨い戒律・ 貧しい僧が生きては行けない戒
律・

貧しい者を見下し 平気で酷いイジメをする者達」に
『この人達は人間でも僧でもない！』と思ったはずです。

私が全て悪かったのです・・・幼い内から仏門入りさせ

戒律の中だけで過ごさせたから・・・「真つ直ぐな教え」の中だけの世界で・・・

人は「神でも仏でもない」でも

人を導くはずの僧侶が 上面だけの卑怯者だなんて・・・

正月はどの家も戸口を締め 托鉢に行っても 誰も出てこない・

経を読んでも風の音で聞こえにくい・・・それもあるが・・・

玄関先で 経を読まれたら 縁起が悪いので 皆よくは思わないし・

・

正月に托鉢に行く者は 誰一人いなかったのです・・・ 涙

涙 涙

托鉢に行きたくても 行けない状況だったと思います・・・

18歳波紋！ . . . 肉・酒も吞む安国の和尚から . . .
僧侶の服・ケサも全てはぎ取られ 波紋された！
幼い頃から 辛い思いをしながら 凄く頑張ってきた事を知ってい
ながら . . .
こんな上辺だけの 僧侶の集まる寺など 願い下げだ . . .
一休は寺を出た。

惨めな格好で托鉢に行くと 『乞食にやる物などない！』と
皆からひどい仕打ちを受けた . . .

『僧侶の格好して ケサを付けてるだけの者にお布施をするのか！』
人間不信になる . . . 行く当てもなかったが . . .
やっと 一生の師を見つけ 弟子入りした！ 必死で頑張った！
そして千菊丸から手紙が来ました。「ご心配をお掛けしましたが
私は名のある方の下で
今 修行に励んでおります」と . . . 私 は 安心して
いました。

それから4ヶ月〜6ヶ月位経ち . . . 運悪く師が 亡くなっ
た . . .

最後に この偉い僧の元なら 母に認められる高層になれる！ 母
に会える！
これが最後のチャンスだった . . . 堅く信じて 命がけで必死で
頑張った！
毎日毎日休む事なく！ . . . 「もう無理だ . . .」
幼い頃から19年間 . . . 母に愛されたい会いたい一心で 辛さと
過酷に耐えてきた。

この時代 誰か偉い人の弟子入りで修行し 高僧になる道しかなかった！

・・・「もう母に会う夢も叶わなくなった・・・」 全ての希望が絶たれた・・・

「最後に一目母に会いたい・・・」 琵琶湖近くの寺より

遠く母のいる京都に

ひと休み ひと休みしながら歩いた・・・ 金も無く 真冬の

寒空

何日も歩き通して 空腹だった・・・子供の時と同じだった・・・母にも見捨てられ 『母・高僧・心の支えが全てなくなってしまうた・・・全てが幻のようだった・・・』

ぼとぼと・・・同じ道を引き返した・・・清水寺から身投げしようか・・・さまよいながら

遠く琵琶湖まで・・・。全ての人に裏切られたような・・・悟ったのだ・・・

誰からも必要とされていないことを・・・自殺を図る。

母の乳母（付き人）の介抱で一命を取り留めた・・・もう母の所にも行くことも・・・

何処か遠くにも行きたい・・・独りぼっち・・・暗く長い日々を過ごした。

その後 「乞食僧として一生生きていこう！」と心に決めた。

物心つく頃から僧の道しか知らずに育った・・・

幼い頃から 乞食僧でしか生きる道がなかった。

貧しい中 人が恵んでくれた物は・・・腐りかけの物や 捨てるような物が殆どだった・・・

修行僧として 幼い頃より世界一 過酷な一生を遂げられたのです！

79歳で自分と同じ 天涯孤独の盲目女性と出会い
生まれて初めて温かで安らぎのある生活ができた・・・ 『死にと
うない』

一休の詩「秋風一夜百千年」

秋風吹く寂しい夜 あなたと共にいる。

それは百年千年にも値する・・・温かく幸せな時間だ。
秋風とは 人生の終わりが近づいて 心寂しく・孤独を感じていた
時・・・

の意味と四季を表す。

今世で 再び巡り逢い必ず幸せになって欲しい。

幼少より 死

にたいほど辛く苦しい時が長かった。

やっと 幸せになり生まれてよかったと・・・ 心残りだと思う・・・

私が寺に入れなければ 幼少よりお腹いっぱい食べれたろう・・・
もつと生きる事ができたらう。

一休は『生き仏様』と言われ庶民からとても慕われていました^^

<ドクロの杖>

正月前、ドクロの杖を持ち 「ご用心ご用心」と練り歩いた・・・

安国寺の和尚の怒りに触れ・・・ 波紋された。

戒名<周建>と僧侶の服も剥奪された・・・ が、最後に何
とか 謙翁宗為の下に

弟子入りでき 戒名「宗純」となり 死に物狂いで頑張ってきた・・・

・・・師が亡くなった・・・ 母からも見捨てられ・・・

19歳自殺未遂・・・

私は一休が 最後（4度目）に会いに来た時も 顔も見ず話も何も聞かず

「あなたは身仏の子 ここへ来てはなりません。お帰りなさい！」と酷い事を言ってしまった・・・

師が亡くなり もう何処にも行き場所がなかったとは・・・

正月前 師を弔う金もなく 近所の村人も皆冷たい・・・

19歳 一人寂しく亡くなった師と 正月を迎えた・・・
村人に頭を下げ 何とか師を弔う事ができ 寺（琵琶湖近い）を出た・・・

真冬 空腹と寒さで眠れず 何日も歩き続け やつと母の家までたどり着いた・・・倒れそうだった・・・母に「帰れ」と言われた・・・

心から愛していた母・・・どおして・・・信じて死ぬほど頑張ってきたのに・・・

「僕は 捨てられたんだ」・・・ 憔悴しきった身体で来た道を帰る・・・ もう行く所もない・・・

帰る所もない・・・うなだれて とぼとぼ泣きながら来た道をあても無く・・・
遠く琵琶湖まで・・・

母の家は 安国寺よりも遠く（物部？兵庫県より）にあり
会いに行くのも 何日もかかり9日以上ととても遠かった・・・
金も無く 飲まず喰わず・・・ 琵琶湖で入水自殺を図る・・・

母の乳母へ付き人への介護で 一時 身体は回復し 何とか

22歳10月まで 気力を振り
頑張った・・・

その間 將軍から 大徳寺の在参・印可状など僧侶として生きよ
！との

配慮もあり 数回顔を出したが・

この時読んだ詩が 5歳のあの辛い日の事・・・

『有漏路（煩惱の世界）より 無漏路（仏の世界）へ帰る 一
休み、

雨降らば降れ 風吹かば

吹け』

煩惱の世界⇨母の家 仏の世界⇨自分のいる場所・・・

印可状は断り その代わり 「一休」の名を頂き 一人で生きて行
きますと

寺をあとにした。

「一休」とは 一人休む・ひと休み の2つの意味がある・・・
子供の頃から ずっと独りぼっちだった・・・

ぼんやり広い琵琶湖を見つめていた・・・

心の底から母を想っていた・・・ どおしてこんな事に・・・
どうして母は会ってくれないのだろうか・・・どおして・・・

何度も 深いため息をついた・・・空しい・・・

母の乳母へ付き人々のお陰もあり 気力を振り絞り 23歳まで頑
張ってきた・・・

が、身体は 既に後遺症の為 ボロボロに・・・

その後 快復するまで13年間 へ35歳へひっそりと暮らしまし
た・・・

一休は 極度の栄養失調と 13歳の冬に風邪をこじらせて以来
かなり具合が悪く 重傷だったのです・・・

気力のみで倒れそうになりながら 必死で 人の分までこなし頑張
ってきた！・・・生きていたのが不思議なくらい・・・

安国寺にいた時は 風邪で高熱の時は 母上が薬を持って来てく
れ 早く治った。

仲間皆も 幼児の時から 心配してくれて 正月分の食料も少しずつ持ち寄ってくれ
何とかやってこれた・・・
最後の師の下では 命懸けで頑張った・・・ 体力・気力も限界だった・・・

夜中 眠れず考え事をしていた・・・ 『ギャー!!』と鳴いたカラスの声に
荒んだ世が重なり 『悟りを開いた!』

これは定めなんだ! 僧侶の道を歩かなければならないという!

『悟りを開く修行など無意味! 二度と僕のような人を出さないようにしなければ!』

権力や形式で人を支配・屈服さすこの世を許さない!
表面だけの ケサを纏っただけの高僧侶も恥を知れ!
私は困っている人の為に 自分で出来る事をしよう! 『決心した! 悟りを開いただけでは 世の中は変わらないと悟った。』

自殺未遂から8年・・・ 少し体調が良くなった一休は 大事に貯めておいた大豆で
栽培をしようと試みたが 失敗した・・・ 残り僅かの大豆で
何とか

増やす事ができ 食べれるようになった・・・
この大豆で 干し塩漬け納豆を造ってみた。
これなら日持ちもするし助かる 『旅にも!』
一休(36歳) 体力も快復して 以前のように熱も上がらなくなつた

暖かな春々秋 時々旅に出かけ 自然に癒やされ 元気を貰った・・・

母の言う 立派な高僧になろうと 無理をして頑張ってきたが・・・
乞食同様・・・人から恵んで貰い生きてきただけだ・・・
今さら格好を気にする必要もないか・・・

その後 自らを「乞食僧！」と言い

一人の僧侶として 世の為 人の為に尽くした。

年貢の取り立ての厳しい中 長年かけ荒廃した寺（のちの酬恩庵）
の再興をした。

物心つく前に僧侶となり 死ぬまで。

よく頑張った！と どうか誉めてやって下さい・・・

・僧侶の中で 幼少より厳しい修行をした者は 世界で一休 だ一人なのです！

前世イエスキリスト時代から 庶民の為に尽くし

一休時代では 更に苛酷な修行をし パワーを増し 旅の僧として生涯を尽くした。 宗派など問題ではなく行いは同じだった。

盲目の娘さんも 『生き仏』と言われる一休の噂を知り

頼って来られたの

だと思えます・・・ 幻だった温かな家庭生活・家族の温もり・
愛を 一休は生まれて初めて知りました・・・ 本当に娘さんに
とても感謝しております！

そして私（一休の母）は 我が子にとっても惨い仕打ちをしてしま
った事を・・・

深く深く 懺悔の気持ちでいっぱいです！ 胸が押し潰されそう
です！

「私はなんて母親だ！本当に申し訳なかった」と土下座して謝りた
い・・・

昔に戻るものなら 我が子を抱きしめ 『悪かった！母が悪かつ

た!』と

頭を撫でてやりたい!

『辛かったろう

よく頑張った!よく

頑張った!』と

肩をさすり抱きしめたい!

今現在の息子(一休)に 『再び生まれて来てくれて有り難う!』

と言いたい!

私の魂も救われました。

子供を大事にしようと思います。

・・・今の私には息子が『生き仏様』のようです

私は前世の記憶から 心に十字架を背負い 懺悔してゆきます・・・

【食事】

あの頃(幼児)

一休が食べたくても食べれなかった物

だと思つと 胸が詰まります・・・ 食べ残しはやめます。

そして 一休のように 人の心・動物の痛みを 自分の心の痛みとして考えられる人に私もなりたい。

一休考案の 干し塩漬け納豆は 貧しい僧侶に大変喜ばれた。

野草と一緒に煮込むのだろうか・・・

一生 卵肉魚貝など 美味しい物を食べれず質素に過ごした・・・

息子の魂年齢が千歳なら 私は17歳・・・愚かな母を許して下さい。

公家の出で

全て乳母の世話になり

なに不自由なく育てられた

私は

世間を全く知りませんでした。

寺に預ければ何とかしてもらえ

ると・・・

仏門に入らなければいけない所だとは知らず・・・

庶民の暮らしより はるかに厳しい世界だとは・・・

頭を剃られた後の一休を見て 取り返しのつかない事をしたと気付

きました・・・

髪もすぐ伸びるので

2・3ヶ月おきに・・・何度も何度も

想像を絶する 痛い辛い思いをしたでしょう・・・

【一休宗純】 宗純〓戒名（仏門入りし戒律を守る証としての名）

一休〓道号（師から認められ名付けられた名）

ですが 本人の立つての希望により「一休」にして頂きました・

5歳になったあの日から 僕は 独りぼっちで生きてきた・・・

『僕は一人で生きていく！』と心に決めた日から・・・ 「千菊丸」ではなく・・・

独りぼっちの 『一人』と 休み休み帰った『休み』で【一休】

「一人」で生きて行く と決めた時、木の側で小さく震えていた。

「休」は 人が木の側にいる意味・・・冷たい雨風が少しでも避けれる木の側で

震えながら一人休んだ・・・

そして「一」は全ての始まりを意味する。

孤独、涙と飢え、寒さ・・・愛も温もりも何もない・・・狂雲の一生でした。

狂雲とは・・・狂うほど辛く淋しく 暗雲に鎖された心を意味します・・・

一休は 自分に付けた名です。

<2度の自殺未遂>

一休が自殺未遂し母の乳母（付き人）の必死の看病により 一命を取り留めました・・・ 放心状態となった一休はふらふらと清水寺に

行き

何時間もそこに立ち尽くしていたそうです・・・そして再びふらふらさまよい歩き・・・

・瀬田川に身を投げようと思いました・・・

私は 乳母に 「暫く側にいてやってほしい。元気になれるまで・・・とお願ひした。

乳母（付き人）は泣きながら諭すように叱ってくれました・・・誰からも愛されず必要とされてないと思っていた・・・こんなに自分の事を心配してくれる人がいるんだ・・・母に甘えた事のない一休は 勇気を振り絞り 甘えてみた！ 優しく全てを包み込んでくれた！

心の傷も癒え 体力も回復し とても幸せな毎日だった・・・灰色だった心の闇が パーツと青空のように 清々しく晴れた そんな感じだった（2ヶ月）

一休が笑った！と知らせが来ました。

生まれて初めて笑顔になれた時だと・・・涙

私はもう大丈夫だと思い 乳母を呼び戻した。 間違いでした。

一休の身体は 一時回復しただけで 再び酷い後遺症になってしまいました・・・

そして可哀想に 再び天涯孤独の身にさせてしまいました・・・ やつと母を忘れ 立ち直れたと思ったのに・・・

また独りぼっちになってしまった・・・

乳母に これからも一休の側にいてほしいとお願ひするべきでした・・・

乳母も そう思っていたと思います！

誰か一人でも 自分の事を思ってくれる人がいるだけで 人は生きて行ける・・・

私は一休に 一緒に暮らしますか？と 一応訊きましたが・・・

「私は御仏の子なので・・・御仏の子として生きて行こうと思います。

・」とだけ。

私は一休を死ぬほど悲しませ 苦しめるだけの存在でしかなかった！

その後 足利將軍から 詫びと「大きな家屋敷を建てたので 母と暮らしては」

の話が来たが 一休は断りました・・・
今更・・・母にも・・・それに 貧しい庶民から絞り取った金で建てた家など・・・

「ならば僧侶として生きよ！」と將軍は言いました。

一休は断わる道しかなかったのです・・・ 「あなたは御仏の子」と 何度も冷たく突き放された・・・ 僕がいては母が困ると悟った・・・

「自分は身仏の子として生きて行く」と母に言った後でした・・・
もう遅いのです・・・

子供の頃から 一度も母と話をした事もないし・・・甘えた事もない・・・

何度手紙を出しても 一度も返事は来なかった・・・

今更 何を話してよいかも分からない・・・ また傷つく。

自殺を図って もう母の事は忘れない・・・辛すぎるから・・・。

もう母の顔を見ても笑えそうにない・・・

將軍が亡くなられた後 天皇の後継者の話もありましたが 全て断り

代わりに親戚の者を推挙した。 幕府もこれに賛同した。

一休が子供の頃から夢にまで見、 欲しかった物は・・・
金では買えない 温かい家庭でした。

一休は 見かけだけの 墮落しきった僧達を批判するため

わざと さも本当のように見せかけ 酒を呑んでる振りをしたり
肉食の振り 女達と仲の

良さそうな振りをして大げさに見せた！

とつくりの中身は「水」でした！^^

前世もですが イエス・ツタンカーメン・一休 と時代が変わっても

純愛しか経験のない息子です。 今世で 再び巡り逢い 必ず幸せになつて欲しい！

きつと愛のある温かい家庭になる・・・^^

> 酬恩庵 <

一休63歳・・・亡くなった母の年齢に近づき 自分もこのまま旅の僧を続けても

道端でのたれ死にか・・・誰にも見向きもされず・・・

尊敬する高僧が 晩年暮らした 荒廃した住居を見て・・・ 涙を流した・・・

一人ぼっち・・・孤独だ・・・ 人々から忘れられ見向きもされない

気の毒に・・・ お金のない一休は 長年かけて修復した！ 応仁の乱もあり 戦火をのがれ非難していましたが

気の毒な盲目の女性と出会い 何とか住む場所を・・・ 一休に良い考えが浮びました。

盲目女性の小袖に とても美しいもみじの刺繍？がありましたのでそれを借り 天皇に会いに行きました。

「とても良い詩が浮びましたので」と。 ^^

詩「花は桜木、人は武士、柱はヒノキ、魚は鯛、小袖はもみじ、花はみよしの」 天皇は美しい詩にとても喜ばれ

一休の「戦火にあります 名のある茶室<虎丘庵>を 安全な場所<酬恩庵>に移し

そちらに住みたいのですが・・・」とお願ひしましたら 快く引き受けて下さいました。 天皇とは それからも 詩を披露する 親しい間柄になりました。

80歳―天皇から大徳寺の住職として寺の再興を頼まれ 力を尽く

した。

大徳寺には住まず酬恩庵（住まい）から出向いて。
盲目女性とは簡素な茶室<虎丘庵>で過ごした。

87歳 高熱が長く続き 意識もつろう 食事もできず脱水症状
で

ミイラのように痩せ細り・・・酷く苦しみました・・・それでも・・・
臨終に「死にとつない・・・」と言いました・・・ 永

眠

墓は 酬恩庵の「慈揚塔」にあり 宮内庁の管理で 一切の出入り
が禁じられています。

母の詩【千菊丸の想い】

あなたへ母へに会いたくてここまで来た・・・ 愛しいあなた

母へ

何故・・・どうして・・・ 風に吹かれ 雨に濡れて

悲しみも 辛さも耐えてきた。 今はもう 遠い夢の中・・・

あなたへ母へはいない・・・

前世でエジプト時代に側にいてくれた女性＝盲目女性<旅の一座の
娘>・・・現世も・・・

「無償の愛・慈悲」を学ぶのに 意味の無い戒律や 修行は必
要なかった・・・

一休は 貧しい人々や困っている人達の為に 薬草など あらゆる
知識を授け

心を癒やし 教えを説いて廻りました。

一休宗純は とても慈悲深いお方でした。

庶民からは 「まるで 生き仏様のようじゃ」と言われ 慕われ

ました。

「一休木像」

一休は自然に抜け落ちた髪の毛・髭を大事そうに 木像の頭に付けた。

6歳になったばかりの日 頭髪を剃られた 辛い思い出・・・辛かった人生。

一休木像の坊主頭は 仏門入りしたあの日からを表している。

「痛かったな・・・よく頑張ったな・・・」と自分の頭を撫でるように 一本一本付けた。柔らかで温かな毛・・・まるで心の傷を治療（癒やす）ように・・・。

あの日 母に頭を撫でてもらいたかった・・・。

長い長い 生き地獄のような修行に耐え よく生き抜いてくれましたね。

「立派になりました！」と誉めて抱きしめてあげたい。

一休 32 追記

一休の詩（狂雲集）です

「門松は 冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」

これは一休が 5歳になったばかりの正月 餓死しかけた 辛い思い出の詩です・・・

正月の門松は 冥土へ行きかけた 幼い頃の自分の墓のように見える・・・

めでたいのdarouが 自分にはめでたいとは思えない・・・ 悲しい詩です・・・

「一里塚」は 里に小さく盛られた土の墓・・・また「一里」は僅か5歳という短命をも表す。

狂雲集―狂うほど辛くはかない 思い出の詩なのです・・・涙

私は真冬の厳しい寒さも知らず育ち 一休に薄い夏用の布団など一枚しか持たせる事ができませんでした・・・本当に惨い可哀想な事をしました・・・

痛いほど芯まで凍える寒さの中で 夜も眠れず（冷たい床の上）何度も高熱を出し 飢えて何度も死に掛けた・・・

窓もなく、明かりも暖も取れない 年中真つ暗な寒い部屋でした。夏場の一ヶ月だけは暖かく眠れたが・・・

身体はいつも重く、酷くめまいもしたり・・・具合が悪かった・・・

いつも人が捨てるような物しか望まず・・・

「捨てる物があれば どのような物でもいいので頂けませんかと、乞食をして生きて行くしかなかった・・・

村人達に「何かお手伝いする事はございませんか？」

「その代わり、後で　を貰えませんか？」と　僅かな物を貰い・
・
托鉢も・・縄張り争い事があり　他の小僧に殴られ蹴られ　酷い仕
打ちを受けるので
遠い所まで　歩いて行くしかなかった・
冬は大雪、雨、強風で　身を切るような痛さだった・
濡れた身体に　みぞれ雨・　芯まで凍った。

12歳頃からは　身体も大きくなり着る服、布団にも困っていたので
他の坊主のする仕事を　殆ど全て一人でやり　物を少しずつ貰い
何とか過ごしたが　手は鞆が酷く　血がにじんでいた・
「修行修行と言い　皆の分まで頑張っておられますよ」とその噂は
母の所まで伝わっていました。

18歳の時　それを見かねた者（坊主の一人）が　親に言いつけた
らしく・
親達は激怒し　子供を叱ったのでした・
そして一休は皆から一斉に無視された・
「お前にはもう何もやらん」と　何もしないように　布団でぐるぐ
る巻きにした。

一休の肩を持つと酷い仕打ちを受けるから　誰も逆らえなかった。
そして正月前・・　何も食べる物がなく　このままでは（正月）餓
死してしまう！

恐怖で一休は気がおかしくなりかけた・
「ああどうしよう、どうしよう！用心になくしては餓死してしまう！
あの時のようになる！」

一休は頭が真っ白になり　何も考えられなくなり　ただ歩いた・
そして

「ご用心ご用心・・」と呟いた・
想像を絶する過酷な毎日でした・

生まれた時　すぐに姑に取り上げられ　顔を見ることも許されず
乳さえやれず

一度も抱いてあげられなかった・・・

私は追い出され　なるべく京より遠い（兵庫近く北上）まで
乳母と歩いて行きました。

天皇は病気になるれ亡くなり　姑も皆亡くなりました。

一休は　父・母の愛を一度も知らない哀れな子でした・・・
食事・着る物・洗濯・掃除・縫裁・布団・草鞋・・・母は何一つし
てあげられなかった・・・
まだ言葉も話せない幼子でした・・・

全ての前世の記憶を取り戻した私は　自分の犯した罪に胸が張り
裂けそうです・・・

あの時　赤子の顔をしっかりと見て　乳を飲ませる事ができたなら
・・・
母性愛に目覚めた・・・

千菊丸（一休）は天皇の子！　寺に入れば　いつか（天皇）として
返り咲く事ができるだろうと思ひ　和尚様に預けました。

・・・地位・権力に執着し、エジプト時代・一休時代と
我が子にとても寂しく辛い想いをさせてしまいました。
公家育ちの為　何一つ自分で考える事はなく　乳母の世話を受けて
生きてきた私は

まるでロボットののように感情がない・・・「人でなし」でした・・・

やっと今　「親が子供を守らなくて　誰が子供を守るのか！」を学
ぶ事ができました。

初めて 「無償の愛」を学ぶ事ができたのも 息子（一休）の御かげです。

<年老いた一休／独りの日々>

薄明かりの中、何時ものように一休は 髪を抜いていた・・・
行灯の青白い光に 白髪が照らされていた・・・

「ああ、もうこんなに年老いたのか・・・」
「私の一生は孤独だった・・・誰からも愛されず

一人で生き 一人死ぬ為の人生だったのか・・・」

咽び泣いた・・・

涙

現世の母より 「一休の辛い想いを 狂雲集・詩により解る事ができ 今

しっかりと母が その心 受けとめましたよ・・・」

私が寺にさえ入れなければ 普通に生活、結婚もでき 温かな家庭が築けたはずです・・・

こんな馬鹿な（公家の出）の私に 誰一人意見を言う者もおらず
一休の辛さを解ってあげる事すらできなかつた・・・
情けない馬鹿な母でした・・・

身仏の子・・・

仏の道・・・死後の（飲まず食わず、寒さも感じず、眠らず、見ず言わず）

何も無い無の世界。

生きる道とは「逆の世界」でした・・・ 涙

一休は19歳目前に自殺を図り 身仏の子（仏様）として生きる覚悟をしました。

母の望みは 身仏の子ではなく 『御仏（天皇）の子』として
天皇に返り咲いてもらいたかったのです・・・

何故なら

千菊丸（4歳）の時、父（天皇）が亡くなり 將軍から『そんな子
わっぱに何ができる！

母の元にも帰ってしまうがよい！』と言われ

千菊丸は天皇の座から追い払われ 母の元に連れて来られたので
した。

將軍は 一休の自殺が、自分のせいでもあるから 詫びのつもりで
でかい家を建て

「母と一緒に暮らすがよい！」と言いましたが

一休（千菊丸）は 身仏の子（仏様）として生きる事を 母に言っ
た後なので

きっぱりと断りました。

母は後でこの話を聞かされ 愕然としました。

後にも先にもない一度きりの 天皇に返り咲くチャンス

断ったのですから・・・

当たり前でした・・・ 母にも捨てられ 乞食以下の過酷な生活の中
で

命を懸けて生きてきたのですから・・・

辛すぎて生きる事にも疲れ果てた・・・

母や將軍にも一休は関りたくはなかったと思います・・・

< 現世の息子 >

息子は子供の頃から よく高熱を出し この時

前世の記憶の何かを 感じ取ったみたいです。

1カ月半 皆に 布団にグルグル巻きにされて 強く縛られ
一日中 蹴られたり激しく転がされ 壁にぶち当たり 吐く物がな
くなるまで・・・一休

死の直前 内臓が内から捲れ上がり無くなるような 絶叫の痛み・
「エジプトノ毒殺」

相次ぐ家族の死・・・自分だけが取り残されていく悲しい夢「記憶」

「油問屋―5歳の時、母は惨殺され そして誰もいなくなった・
・・・」

母の自殺を止める事ができなかった 無力な自分・・・「エジプト」

いつの時代も独りにだった・・・追いかけても追いかけても 逃げて
いく幸せ・・・

*一休時代の森女さんは盲目に生まれた・・・

エジプト時代の愛する人の死

私の自殺、ツタンカーメンの死、父の自殺で・・・

「もう二度と愛する人の死を見たくない」と

盲目に生まれたのですが・・・

一休さんが晩年 高熱で寝込み（風邪）

森女さんは、お水を飲ませたり介抱していましたが 弟が突然来て、
無理やり連れて行かれました・・・

一休の弟子達は 森女さんが傍にいたので安心していただけでしたが・

臨終まで誰も一休の世話をする者はいなく

飢え、脱水、高熱により亡くなりました・・・

臨終の噂を聞いた森女さんは 必死で懇願し最後にやっと会わせて

もらいました。

ミイラのような姿を見ずにすんだのですが

「私さえ目が見えたなら一休様の傍にずっといられた、介抱もしてあげられた・・・」

と、とても辛い想いをしました。

心優しい一休は 最後の力を振り絞り

「あなたのせいではない・・・」

「私さえ元気ならもっとあなたの傍にいてあげられた」

「死にとくない・・・」と言い残し・・・

最後まで森女さんを想い 優しい一休でした。

現世、よくこんな母の許に生まれてきてくれました。

「生まれてきてくれて本当に有難う！」

母より

もう独りぼっちにはしませんからね

これからは ずっと一緒です

長い間 待たせましたね

*今年可能なら 千菊丸を預けた寺（景德山）へ一休寺まで行き

懺悔と・・・ ずっと迎えに来てほしいと待ち続けていた我が子に・・・

「迎えにきましたよ 一緒に帰りましょうね、よく頑張りましたね」と言い

心から合掌したいと思います。

そして 景德山の和尚様に 心から

「千菊丸のお世話をして頂きまして本当に有難うございました」と
お礼を言い 合掌して参ります・・・

く 未来予知 巨大隕石と奇跡 く

奇跡

地球に巨大隕石が接近し 我々が宇宙へと旅立つ日まで
そう遠くない。

我々は 大型航空母艦で 宇宙ステーション近くまで行きます。
宇宙ステーションから 大型宇宙船（母船）に乗り込み
すぐに地球を離れます。（巨大隕石回避の為）

我々は船内からゆつくり この巨大隕石を眺めます。

（擦れ違う時）

そして暫く 蟹星雲などを観て

再び地球、地上へ降り 2〜3ヶ月待機後、再び

宇宙ステーションへ。肉体再生後、宇宙スーツ・アイガードを
装着し 大型宇宙船で宇宙に旅立ちます。

表向きは「宇宙観光」ですが・・

巨大隕石の回避が本当の目的です。

太陽系の惑星、土星など観た後、戻るはずが・・

何故か・・

最後にもう一度 地球を見て

遙か遠い宇宙へと旅立つ・・

暫くは を眺めています

この太陽系（我々のいる）または

銀河を離れたのでしょうか・・

船内は急に真っ暗になります。

アイガードの装着で更に暗い。 人がいても

誰だか判断できませんが 声で判ります。

食事は5日に一度位、 やや酸味のある薄ピンクのジェルで

チューブから飲みます。量は試験管3分の2程度。

何か食物を各自で用意して下さい(2026年)
貴重な食べ物です。

(我々の太陽系)を離れるまで食べるのは我慢して。
リュック一つに入れ 手荷物は持たないで下さい。

私は肉体再生後、この美しい地球に残りたいと思います。
衝突はぎりぎり避けられるのではないかと思うので・・・
でも全く判りませんが。

もし奇跡が起きるなら・・・

日本に戻り 国の再建をしたいと思います。

アフリカの貧しい人々を受け入れ

農耕などを行い 十分な衣食住と、豊かで安心して暮らせるような
そんな国にしたいと思います。

<重要>

宇宙ステーション・エレベーターの設置は

モルディブのような島国では「絶対に駄目!」

海水の影響により 2度目の着陸(宇宙母船)は不可能になります!
ケニアの平地がよいのでは・・・

既に、モルディブに決定しているのであれば・・・

もう一箇所 降りる為の場所エレベーター・ステーションが必要となります。

・
・
この設置ができたなら、我々は無事に地球へ帰還できるでしょう。

<宇宙への旅立ち>

開発を急がなければならない物は

宇宙線から目を守る『アイガード』です。

次に頭部用ハ宇宙スーツの一部は目を残しピッタリと顔を被う物。

ボディースーツも 同じ薄地で皮膚をびったり被う。

アイガードは一番最後に開発されますので。

自分の肉体も 再生され若々しいボディ（18才位）に 完全に交換されます。

*記憶も残りますので安心してください

*宇宙母船から 緑の大地ハ地球再生と黒毛猿を観て

安心して 宇宙の果てへ旅立つ時がくるだろう・・・

<麻生太郎前首相？によるコメントです> 2009.12.9

EUの「環境戦略」に暗雲

「環境問題」を起点に

政治経済の分野で世界的にリードしようという

EUの21世紀戦略に

中国が

その元凶（現代までの蓄積された環境汚染の主役としてのEUの責任）を追及することで

どうやら戦略そのものに暗雲が・・・

<アフリカで宇宙事業の開始が決定される 2010.11.>

小型人工衛星などの生産が開始された。

つまりアフリカ（ある国）で 宇宙ステーション用のエレベーターが

設置される可能性がある。そうならば
我々は 楽しく宇宙観光し帰還できるだろう。

<世界は一つ！>

皆の意識レベルが向上する事で 良い方向に未来は変わるでしょう。
世界中の人々が 分け合い、協力して 「食べる」「医療」「交通」
の

無料化を行う事で 全てが変わって行くはず・・・

『地球温暖化による天災と疫病』

協力し合うしか 人類と地球の未来はない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9550j/>

前世の記憶

2010年10月12日21時43分発行